

1-2 種子植物



ヤマブキシウ 1996 年 佐倉市 大場達之

1 千葉県の種子植物

千葉県の種子植物は、明治時代から採集されているが、1書にまとめられたのは、1932年に與世里盛春が出版した「千葉県の植物」が最初であり、在来種952種6変種16品種が掲載された。その後1958年に千葉県生物学会が「千葉県植物誌」をまとめ、1490種、3亜種、57変種、43品種、1雑種となった。さらに研究進められて1975年には千葉県生物学会が「新版千葉県植物誌」を出版し、1447種、3亜種、71変種、117品種を報告している。最も新しい千葉県植物誌は、2009年に千葉県史シリーズ・千葉県の自然誌・別巻4として発行され、1437種、4亜種、102変種、130品種、64雑種となった。その後、新産報告や新種の発見があった。今回の評価対象となる在来種は、1565種、8亜種、185変種、215品種、65雑種である。

千葉県に生育する植物の盛衰を見ると、與世里盛春が昭和時代初期に採集したのみの種子植物が数種あり、その後消失した可能性が高い。また、昭和30年代を境にして、水生植物やススキ草地、湿地の植物が急激に減少しており、現在もこの傾向は続いている。一方で、平成時代に入って、地域の自然現況調査などにより、調査地域が広がると共に、千葉県立中央博物館が設立され、植物調査が急速に進展し、新たに発見された希少種や新産地も少なくない。これまでに20万点を超える県内標本が整理され、失われた生育地や、生育数が減少した種子植物が少なからず確認されており、絶滅のおそれがあり、保護を要すると評価された種は増加している。

2 評価対象種

- ・評価対象とする単位は、種、亜種、変種、品種、雑種。ただし、品種の中で、白花などの個体変異にあたるものは対象外とした。

- ・千葉県で記録された証拠標本のあるもの、または明確に他と区別できる種で写真記録のあるもの。

- ・千葉県新産種： 今回の改訂に際して現地調査と標本調査を実施し、千葉県から初めての記録となる種子植物が発見された。その中から以下を保護上重要な種子植物として選定した。

シラカワタデ *Persicaria maculosa* Gray subsp. *hirticaulis* (Danser) S.Ekman & Knutson var. *amblyophylla* (H.Hara) Yonek.

キタミソウ *Limosella aquatica* L.

3 分布情報の収集

評価にあたっては、まず千葉県の種子植物の現状をできる限り正確に把握することを目的として、これまでに存在する千葉県内の種子植物の分布に関する情報を収集した。

千葉県レッドデータブックー植物・菌類編 2009年改訂版に用いた情報（植物標本、写真、文献：学術文献、地域フローラ、植生調査の報告、環境アセスメントの報告書、野外調査の記録等）約60万点と、その後の文献記録、千葉県立中央博物館収蔵庫の標本記録約20万点を用いた。これらのデータには重複があるので、それは省いて、カウントした。これらのデータは、分類群ごとに、3次メッシュ（2万5千分の1地形図を縦横10等分したもので、約1km四方）のデータをまとめた。保護すべき植物の選定基準としては、分類群ごとに記録されたメッシュ数を、地理的広がり程度の程度を知る基礎とした。

4 評価の方法

ランクの評価は、環境省のレッドリスト判定基準における定量的要件（基準B）を参考にした。環境省に基準では、生育面積や生育個体数を判定の基準に用いているが、千葉県産の全ての種子植物について、現在生育している個体の数や生育地の広がりを確認することは、非常に困難である。また、過去に生育が確認された個体群が現在も存続しているかを、全種について確認することも非常に困難である。そこで、今回の改訂にあたっては、生育面積を3次メッシュ数と読み替えることとし、現在までに得られたデータから、それぞれの分類群ごとにメッシュ数を算出し、基準Bを用いた。その結果、2021年時点で、100メッシュを超えた分類群は原則としてランク外とした。

千葉県で生育が確認されている種子植物全部について、確認されたメッシュ数を算定し、A～Dのランクに該当するものを抽出し、種の特性や現在の分布状況等を鑑み、評価を決定した。例えば、ここ30年ほとんど記録がない種や、現在、生育地が急速に開発されている種などは、現在の生育状況を加味して評価した。

5 情報不足・絶滅のおそれのある地域個体群

(1) 情報不足 (DD)

- ・ツルアジサイ *Hydrangea petiolaris* Siebold & Zucc.

千葉県生物学会（編）（1958）によって清澄山に生育すると記載されているが、標本が確認できず、千葉県史料研究財団（編）（2003）においても、イワガラミの誤認である可能性が指摘されており、過去も現在も県内における生育が確認できない。

(2) 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)

- ・ノコギリヒゴタイ *Saussurea sinuatoidea* Nakai var. *bosupeninsularis* T.Ohba & Yoko Kimura nov. prov.

これまでBランクにされていたが、基本種であるタカオヒゴタイ *Saussurea sinuatoidea* Nakai とは外部形態が異なるが、正式に記載されていないため、地域個体

群とした。

ノコギリヒゴタイの根生葉は、広卵形で、先端は尖り、心脚で、縁には粗い鋸歯があって、バイオリン状の欠刻凹入がないことや、総苞は卵状筒形あるいは鐘状で長さ7～11mm、幅7～8mmで、タカオヒゴタイよりも小さいことなどが特徴である。鋸山、君津市宿戸と館山市龍岡に生育しているが、個体数も少なく、生育地が遷移していることにより絶滅のおそれがあり、保護上重要である。

6 保護を要する種子植物の概要と保護対策

現在、千葉県では暖温帯の植物が主に生育している。以前、寒冷だった時に房総半島に侵入し、現在では房総丘陵の限られた場所に生育している遺存植物がある。カツラやシナノキ、ハクウンボクなどがその例である。これらは生育地をしっかりと守る必要がある。特にゴヨウマツやイヌブナのような風媒花のものは、もはや自然状態では種子繁殖ができないので、人工的に交配して保全する必要がある。

保護を要する植物には、生育適地が、湿原のような点状のものがあ、開発によって失われるものがある。コシンジュガヤやクロタマガヤツリなどは、生育地を保全することでしか保護することができない。

北総台地の草原性植物も開発により、生存を脅かされている。かつて馬牧だった所には、草原が残っており、スズサイコやオキナグサのような草原性の植物が生えている。

かつて手賀沼や印旛沼は、ガシヤモクやヒロハノエビモのような水草の宝庫であった。湖沼の汚濁やウシガエルやアメリカザリガニなどの外来生物の影響で、埋土種子由来の株を植えても食害で定着させられない。域外保存で、系統を維持しなくてはならない。

海岸植物も、海岸の開発や砂浜の侵食で、危機に陥っている。砂浜の砂が風で動くようでない、他の植物の侵入を許してしまう。特段の配慮が必要である。

雑木林の林床に生育するカタクリやイチリンソウのようなスプリング・エフェメラルは、林が管理されており、林床にアズマネザサがはびこらないように定期的刈り取りが必要である。保護に際してはそのような管理が行われることが保護に取って重要である。

水田に生育しているかつての雑草で保護を要するアギナシやマルバノサウトウガラシなどは、除草剤の使用を抑える。収穫後ロータリー耕をしない。湿田の状態を保つなど、特段の配慮がないと保護できない。

このように保護を要する植物は、生育地が限られているので、様々な施策を取りながら、生育地を保全する必要がある。

7 記述様式

(1) 分類体系・学名・和名

分類体系とその配列は、APG IV (Angiosperm Phylogeny Group (ed), 2016) に、和名は米倉 (2019) に従った。学名は原則として「BG Plants 和名－学名インデックス (YList)」に準拠したが、必要に応じて、個別の文献により修正した。

(2) 生活形

生活形は以下の略号で示した。

Ch: 地表植物 . E: 着生植物 . G: 地中植物 . H: 半地中植物 . HH: 水湿植物 . M: 小型地上植物 . MM: 大型地上植物 . N: 微小地上植物 . Th: 1～2年生植物

8 引用文献

- 天野誠・藤平晃司・軽込勉・三次充和・久本洋子・御巫由紀・尾崎煙雄 (2012) マルミノヤマゴボウ再発見. 千植誌資料 27: 267, 269
- 天野誠・藤平晃司・軽込勉・三次充和・久本洋子・御巫由紀・尾崎煙雄 2012 東京大学清澄演習林でオククルマムグラを発見. 千植誌資料 27: 268
- 天野誠・大内成文 (2013) 東京大学清澄演習林でユウシュランを発見. 千植誌資料 28: 278- 280
- The Angiosperm Phylogeny Group (ed). (2016) An update of the Angiosperm Phylogeny Group classification for the orders and families of flowering plants: APGIV. Bot. J. Linn. Soc.181: 1-20.
- 千葉県環境部自然保護課 (編) (1987) 14 栗山川中流の湿原 In 千葉県自然環境保全地域等適地調査 報告書 II:265-291. 千葉県環境部自然保護課, 千葉市
- 千葉県レッドデータブック改訂委員会 (編) (2009) 千葉県の保護上重要な野生生物－千葉県レッドデータブック－植物・菌類編 2009 年改訂版. 487 pp. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉市
- 千葉県生物学会 (編) (1958) 千葉県植物誌. 525 pp. 千葉県生物学会, 千葉市. 【千植誌 1958】
- 千葉県生物学会 (編) (1975) 新版千葉県植物誌. 567 pp. 井上書店, 東京. 【千植誌 1975】
- 千葉県生物誌 (1999-2022) 千葉県生物学会編. 【千生誌】
- 千葉県植物誌資料 (1995-2022) 大場達之・木村陽子編. 【千植誌資料】
- 千葉県史料研究財団 (編) (2003) 千葉県史 51. 千葉県の自然誌. 別編 4 千葉県植物誌. 1177 pp 千葉市. 【千植誌 2003】
- 千葉県史料研究財団 (編) (2005) 千葉県史 49. 千葉県の自然誌. 別編 2 千葉県植物写真集. 409 pp. 千葉市. 【千植写真 2005】
- 千葉県レッドデータブック改訂委員会 (編) (2009) 千葉県の保護上重要な野生生物－千葉県レッドデータブック－植物・菌類編＜2009 改訂版＞. 487 pp. 千葉県環境

生活部自然保護課, 千葉市

- Endo, Y. (1994) Pistil Morphology of *Vicia amurensis* (Luguminosae) and its Allied Species. J. Jap. Bot. 69: 379-382
- Endo, Y. & K. Yashiro (1995) *Carex x takoensis* Endo & Yashiro (Cyperaceae), a New Hybrid from Chiba Prefecture, Central Japan. J. Jap. Bot. 70(5): 273-279
- 原 寛・佐藤邦雄・黒澤幸子 (1971) 軽井沢の植物. 305 pp. 井上書店, 東京
- 橋本 保・神田 淳 (1981) 野生ラン. 246 pp. 家の光協会, 東京
- 久本洋子・三次充和・築瀬桐子・大石論・天野誠 (2017) 千葉演習林森林博物館所蔵の 1892 ~ 1990 年に最終された維管束植物標本リスト 演習林 (東大) 59: 1-53
- Honda M. (1930) Monographia Poacerarum Japonicum, Bambusoideis exclusis J. Fac. Sci. Tokyo Univ. Bot. vol.3: 274
- Honda, M. (1937) Nuntia ad Floram Japapniae XXXIII. Bot. Mag. Tokyo 51: 645
- 星野卓二・正木智美 (2011) 日本カヤツリグサ科植物図譜. 778 pp. 平凡社, 東京
- 伊藤 至 (1966) 千葉県のホソバニガナ. 植物採集ニュース 15: 15
- 伊藤 至 (1966) 千葉県植物目録の追加. 千生誌 16(1): 11-12
- 岩槻秀明 (2009) 野田市でオオハシカグサ発見. 千植誌資料 25: 245-246
- 岩槻秀明 (2013) 野田市でノダイオウを確認. 千植物誌資料 28:273-274
- 角野康郎 (1994) 日本水草図鑑. 178pp. 文一総合出版, 東京
- 川崎 一 (2012) 南房総市富浦町丹生でメジロホオズキを確認. 千植誌資料 27:267-268
- 木村陽子・岩槻秀明 (2010) ヤマククルマバナが千葉県に出現. 千植誌資料 26:259-261
- 木村陽子・岩槻秀明 (2015) サガミトリゲモ (ヒロハトリゲモ), 千葉県に産す. 千植誌資料 29: 287-289
- 大場達之・宮田昌彦 (2007) 日本海草図譜. 114pp. 北海道大学出版会, 札幌市
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編) (2016) 改訂新版日本の野生植物 1. 391pp. 平凡社, 東京
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編) (2016) 改訂新版日本の野生植物 2. 381pp. 平凡社, 東京
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編) (2017) 改訂新版日本の野生植物 3. 338pp. 平凡社, 東京
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編) (2017) 改訂新版日本の野生植物 4. 348pp. 平凡社, 東京
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編) (2017) 改訂新版日本の野生植物 5. 472pp. 平凡社, 東京
- 大野啓一 (2007) 房総半島におけるムカゴサイシンの発見. 千植誌資料 23: 197-198
- 小滝一夫 (1994) 三石山郷土環境保全地域 所収 千葉県環境部自然保護課 (編), 千葉県自然環境保全地域等変遷報告

書, p.114. 千葉県環境部自然保護課, 千葉市

- 内野秀重 (2000) 千葉県未記録のタマブキ類について. 千植誌資料 15: 111-112
- Uehara, K., K. Saiki and T. Ando (2013) *Veronicastrum noguchii* (sect. Plagiostachys, Plantaginaceae, a new species from Japan. Acta Phytax. Geobot. 63(2): 63-69
- 上原浩一・斎木健一 (2014) 絶滅危惧種イヌミズカケの概要と保全 千葉県の生物多様性センター研究報告 7: 79-90
- 米倉浩司・梶田忠 (2003-) BG Plants 和名ー学名インデックス (YList), <http://ylist.info>
- 米倉浩司 (2012) 日本維管束植物目録. 379 pp. 北隆館, 東京
- 米倉浩司 (2019) 新維管束植物分類表. 357 pp. 北隆館, 東京
- 遊川知久・谷亀高広・L. N. Sook (2009) 東アジア産サカネラン属 (ラン科) の再検討. Bull. Natn. Mus. Sci. Ser. B Botany 35(2): 57-62
- 谷城勝弘・村田威夫 (1987) 下総におけるフクジュソウ. 千葉生物誌 36 (2): 70-71.
- 谷城勝弘 (1995) 千葉県のスゲ属植物. 新版千葉県の生物, 日本生物教育会第 50 回全国大会千葉大会記念誌 37-50
- 谷城勝弘 (1999) 千葉県新記録のスゲ属植物ーアズマナルコ・アサマスゲ・ヌマアゼスゲ・コミヤマカンスゲー. 千葉生物誌 49(1): 12-17
- 谷城勝弘 (2005) 利根川河川敷の植物ー塩分濃度の異なる環境に維持される群落と河川敷の特性ー. 千葉生物誌 55(1): 9-16
- 谷城勝弘 (2009) 多古光湿原の植物とその保護について. 千葉生物誌. 59(1): 17-24
- Yashiro K. (2010) *Carex x bosoensis* (Cyperaceae), a New Hybrid from Central Japan. J. Jap. Bot. 85(2): 74-78
- 谷城勝弘 (2010) 千葉県のヒルムシロ科 6 種について. 千葉生物誌. 59(2): 1-7
- 谷城勝弘 (2011) いすみ市中原堰の池底に現れる短期一年草群落. 千葉生物誌. 60(2): 28-32
- 谷城勝弘 (2012) 千葉県初記録のベンケイヤワラスゲ. 千葉生物誌. 62(1): 39
- Yashiro K. (2013) A New Hybrid of *Schoenoplectiella* (Cyperaceae) from Chiba Prefecture, Honshu, Central Japan. J. Jap. Bot. 88(2): 103—107
- 谷城勝弘 (2015) 表土の攪乱で再現した“茂原八積湿原”の断片. 千葉生物誌 64(2):52-53

X マルバオモダカ オモダカ科

2009	X
2017	X
2023	X

Caldesia parnassifolia (Bassi ex L.) Parl.

【種の特性】浮葉～挺水性の多年生草本。葉は単葉で根生。虫媒で水散布。池沼に生える。ヨシ群綱。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。中国、インド、オーストラリア、マダガスカル。

【県内の状況】茂原市～長生村周辺で採集された標本が多く残され、千葉市でも記録されているが、湿地の開発などにより近年は記録がない。東京大学には 1880 年に長生村で採集された標本が残っている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。特に水質の維持が大切である。

【文献】新千植誌 1975：477／角野康郎 1994 日本水草図鑑：17／千植誌 2003 643,657

【写真】(左) 2007.8.3 福島県 谷城勝弘／

(右) 1968.8.23 愛知県 標本：CBM BS-74217

(谷城勝弘)



X ヒンジモ サトイモ科

2009	X
2017	X
2023	X

Lemna trisulca L.

【種の特性】多年生草本。葉は退化し茎が葉状。水媒で水散布。貧養な静水の表面あるいは表面近くに浮遊する。ヒンジモ群団。[HH]

【分布】北海道・本州・四国。母種のタイリクヒンジモはユーラシアの温帯に広く分布する。

【県内の状況】神崎町（1935 年 8 月 4 日 CBM BS-6333）及び鴨川市（CBM BS-182470）の標本があるほか、新版千葉県植物誌では山武市などの記録があるが、近年は全く記録されていない。絶滅した可能性が高い。

【保護対策】生息地が発見されたら、水質を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：812,800

【写真】2001 兵庫県産栽培 谷城勝弘

(大場達之／天野誠)



X ヒメシャガ アヤメ科

2009	X
2017	X
2023	X

Iris gracilipes A.Gray

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。5月頃に紫色の花を上向きに開く。虫媒で重力散布。主としてブナ帯の乾いた尾根筋のミズナラ林や半日陰の岩場などに生える。低地遺存ブナ帯要素。[H]

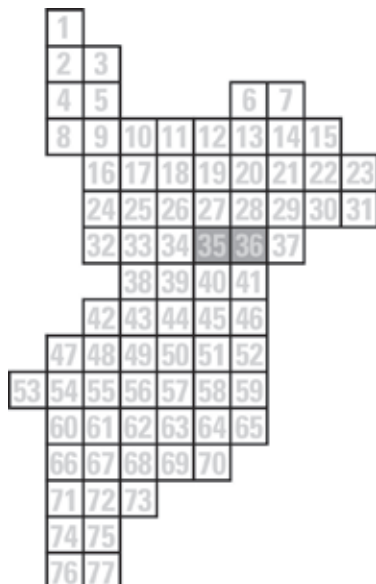
【分布】本州（近畿以東）・四国・九州。

【県内の状況】山武市から1929年と1944年に採集されている。市原市からも報告されているが自生かどうか疑わしい。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千葉県自然環境保全学術調査報告書 1981／千植誌 2003：703, 694

【写真】1975.5. 長野県大場達之
(大場達之／天野誠)



X イヨトンボ ラン科

2009	X
2017	X
2023	X

Habenaria iyoensis Ohwi

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。湿った粘土質の崖の草地などに生える。[G～H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州。

【県内の状況】市原市及び館山市（いずれも榎本一郎 採集1961, TI）に産することが知られていたが現在は消息不明である。

【保護対策】どこでも稀な植物で生育地点も少ない。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】伊藤至 1962 千葉県植物誌・植物目録の追加. 千葉生物誌 11(3)：38／千植誌 2003：912, 902

【写真】1961.8.20 市原市 東京大学総合研究博物館所蔵標本
(大場達之／天野誠)

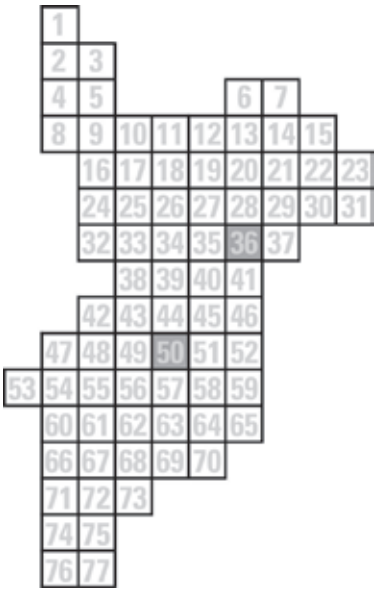


X ササバラン ラン科	2009	X
	2017	X
	2023	X
<i>Liparis odorata</i> (Willd.) Lindl.		

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生し、2枚で、花時には立っている。花は7～8月に咲き、紫褐色。明るい草地に群れて生える。虫媒で風散布。[H]

【分布】 本州（千葉県以南）・本州・四国・九州・琉球。台湾、中国南部。千葉県は北限と考えられる。

【県内の状況】 市原市の斜面に生えているのを報告し、その後千葉生物学会の採集会でも確認されている。また1967年に山武市で採集された標本が国立科学博物館に存在する。しかしその後報告がなく、絶滅した可能性が高い。



【保護対策】 かつての生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 角田実 1956 千生誌 6(4): 94-96 及び 11(3): 38 / 正宗厳敬・里見信生 1972 北陸の植物 20(2): 30. / 千植誌 2003: 920,908

【写真】 1999.7.20 熊本県 永田芳男 (大場達之/天野誠)



X ヤマトキシソウ ラン科	2009	X
	2017	X
	2023	X
<i>Pogonia minor</i> (Makino) Makino		

【種の特性】 小型の多年生草本。地下茎は白く細く地中を横走して分枝し、群れて生える。葉は単葉。花は6月に咲き淡紅色、やや上向きに咲く。虫媒で風散布。草原に生える。ススキ群綱。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

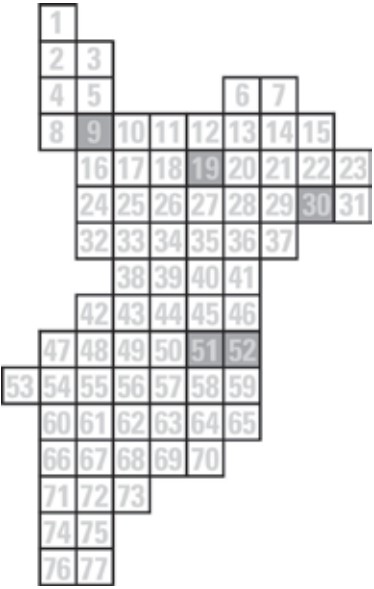
【県内の状況】 新版千葉県植物誌によれば柏市、野田市、成田市、旭市、東金市、茂原市などの記録があるが、詳細な地名は不明である。確かな記録は一宮町（1954）と成田市（1952）である。

【保護対策】 かつての生育環境あるいは類似環境を良好に維持する。

【文献】 新千植誌 1975: 445 / 千植誌 2003: 915,905

【写真】 1986. 東京都 大場達之

(大場達之/天野誠)



X ミノボロスゲ カヤツリグサ科

Carex albata Boott

2009	
2017	X
2023	X

【種の特性】 中型の多年生草本。茎は叢生し、雌雄性の小穂を数個付ける。風媒で、重力散布。花期は、5月から7月。湿地に生育する。[HH]

【分布】 北海道・本州・四国。中国

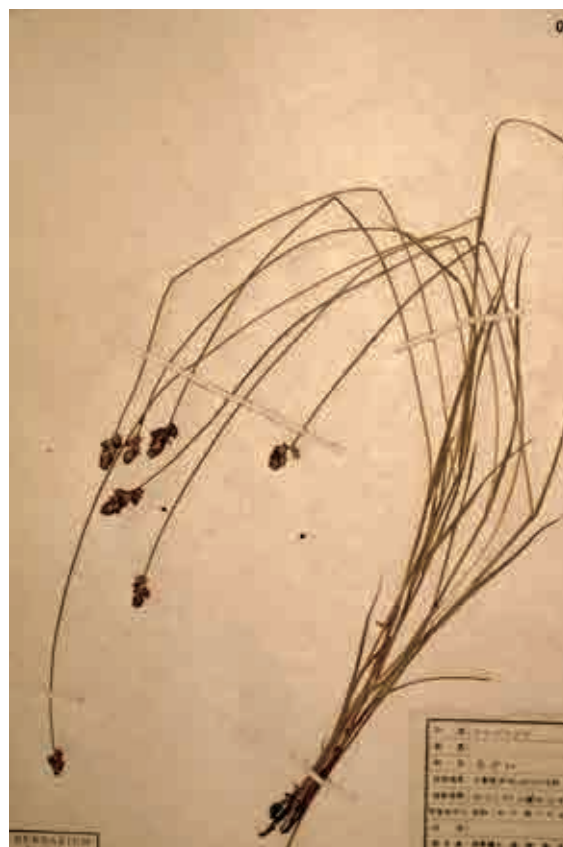
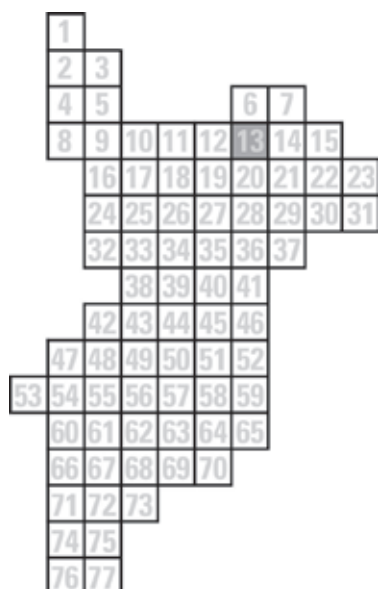
【県内の状況】 神崎町で1927年6月15日に採集された標本(CBM BS-26392)がある。

【保護対策】 生育地の湿地などを良好に維持することが望ましい。

【文献】 日本カヤツリグサ科植物図譜(2011) 96-97

【写真】 1927.6.15 神崎町 標本: CBM BS-26392

(天野誠)



X ミタケスゲ カヤツリグサ科

Carex michauxiana Boeck.

2009	X
2017	X
2023	X

【種の特性】 多年生草本。根茎は短く、茎は叢生する。葉は少数で幅3~5mm。雌性の側小穂は卵球形で、放射状に開出した果胞をつける。果胞は長さ1~1.2cmで狭い披針形、嘴は長い。本来、亜高山帯の泥炭湿地に生える。[HH]

【分布】 北海道・本州(中~北部)。千島、カムチャツカ。

【県内の状況】 本県には記録がなかったが、県立中央博物館による長生高校旧蔵の植物標本群の調査により、長生村における採集標本の存在が確かめられた(天野・斎木: 2006)。長生村では本種の他にヤチカワズスゲなどの寒冷地を生育の本拠とするスゲ類も記録されている。これらはいずれも低地遺存高山要素の種類と判断されるが、近年の土地改変や気候の温暖化により衰退し消滅したとも考えられる。

【保護対策】 旧生育地には埋土種子が残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みることを望ましい。

【文献】 天野誠・斎木健一 2006 アマチュア研究家の採集標本に基づく過去の植物相の復元—長生高校旧蔵植物標本群の解析。千葉生物誌 56(2): 49-55

【写真】 1966.7.10 長生村 標本: CBM BS-226889

(谷城勝弘)

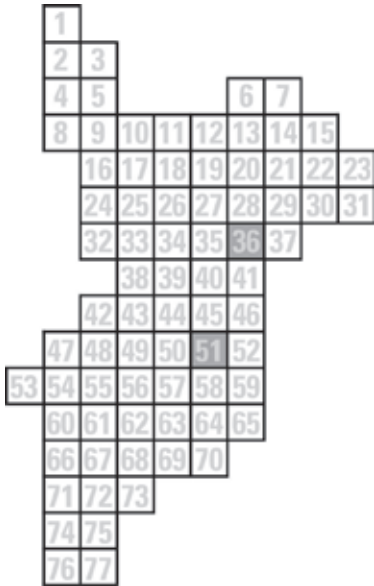


X ヤチカワズスゲ カヤツリグサ科	2009	X
	2017	X
	2023	X
Carex omiana Franch. & Sav.		

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。匍枝はなく、3～5 個の小穂をまばらにつける。果胞は開出し、はじめは緑色であるが、熟すと栗褐色になる。上方はしだいに長い嘴となる。湿地性。[HH]

【分布】 北海道・本州・四国・九州、南千島。

【県内の状況】 千葉県植物誌（1958）に茂原市で採集した記録がある。埋め立てなどによって激減したが、茂原市の東部域には、現在でも湿地や湿地林が点在しており、ヤチカワズスゲの生育可能な環境は多少なりとも残っている。このような場所について精査が続けられているが、近年は発見されていない。



【保護対策】 旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるので、生育可能な環境を保全し、回復を試みるのが望ましい。

【文献】 千植誌 1958：412／新千植誌 1975：457.／千植誌 2003：829,804

【写真】 2000.6.10 群馬県 谷城勝弘（谷城勝弘）

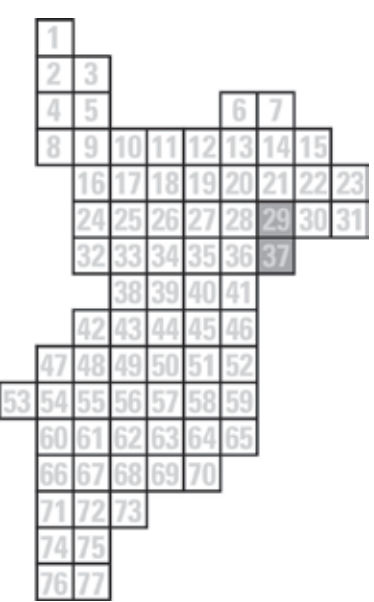


X ツクシオオガヤツリ カヤツリグサ科	2009	X
	2017	X
	2023	X
Cyperus ohwii Kük.		

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。日本のカヤツリグサ属で最も大型。小穂はやや扁平、鱗片は鋭頭。果実は長楕円状で長さ 0.8～1.0 mm。ヨシ群綱。湿地性。[HH]

【分布】 本州。日本では福岡県と茨城県に知られている。ただし茨城県の産地では消滅している。インドシナ半島、マレーシア。

【県内の状況】 1991 年に匝瑳市で確認された。九十九里海岸から 300m ほど内側の湿地で、秋の降雨時には 30-40cm の冠水が見られた。0.2ha 程度の場所にツクシオ



オオガヤツリは 30 株前後が生育しており、高さ 1m 以上に成長した大型の株も見られた。その後、周囲からの造成が始まり、1995 年には埋め立てられて消滅した。

【保護対策】 旧生育地とその周辺には埋土種子として残っている可能性があるので、旧生育地周辺の生育可能な環境を残し、一部に表土の攪乱を施すなど、湿所を造成し種の生育を促すことも考えられる。

【文献】 谷城勝弘 1992 調査会目録：167／千植誌 2003：897,890

【写真】 1989.9.10 匝瑳市 谷城勝弘（谷城勝弘）



X ミスミイ カヤツリグサ科

2009	
2017	X
2023	X

Eleocharis acutangula (Roxb.) Schult.

【種の特性】 中型の多年生草本。茎は叢生し、先端に1つの穂を付ける。匍匐根茎は長い。風媒で、重力散布。花期は、7月～10月。湿地に群生する。[HH]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。中国、インド、東南アジア、オーストラリア、アフリカ、熱帯アメリカ。

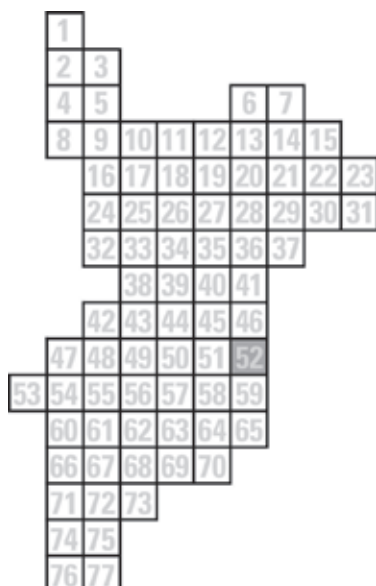
【県内の状況】 長生村で1934年9月27日（CBM BS-1399）、1935年9月29日（CBM BS-1955）、1935年9月29日（CBM BS-163365）で、採集された標本がある。

【保護対策】 生育地の湿地などを良好に維持することが望ましい。

【文献】 日本カヤツリグサ科植物図譜（2011）620-621

【写真】 1935.9.29 長生村 標本：CBM BS-1955

（天野誠）



X イッスンテンツキ カヤツリグサ科

2009	A
2017	X
2023	X

Fimbristylis kadzusana Ohwi

【種の特性】 一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。高さ5～15cm、花序は1～3個の小穂をつけ、果実は黒褐色。柱頭は2個。奥山春季が茂原市～長生村八積間で発見した種。湿地性（海岸性）。ミミカキグサイヌノハナヒゲ群目。[Th]

【分布】 本州。千葉、東海地方の海岸近くに稀。

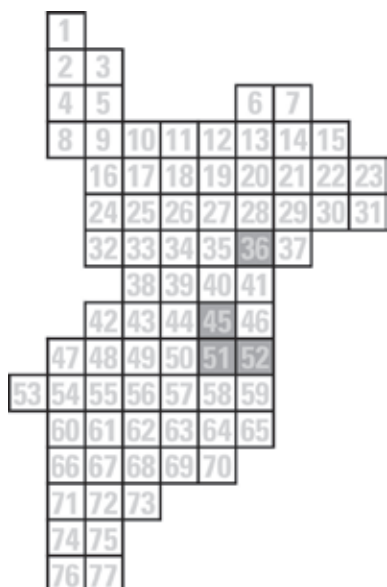
【県内の状況】 九十九里平野南部の茂原市、長生村、一宮町の湿地に生育していた。1956年以降については確認情報もあるが、証拠標本がない。

【保護対策】 旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みることを望ましい。

【文献】 御園勇 1939 千葉県産テンツキ属について、22頁／奥山春季 1947 植物採集覚書。植物研究雑誌 21(7-12)：54／千植誌 1958：416／新千植誌 1975：461／千植誌 2003：862／千植写真 2005：361

【写真】 1934.9.23 長生村 標本：CBM BS-89466

（谷城勝弘）



X ヤリテンツキ カヤツリグサ科

2009	X
2017	X
2023	X

Fimbristylis ovata (Burm.f.) J.Kern

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。小穂は普通1個で、鱗片は2列につく。近海地に産する。ワダン・イソギク群綱。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、マリアナ群島。

【県内の状況】1904年に南房総市で採集されたのが千葉県の最初の記録である(MAK-228579)。次いで、いすみ市で採集されている。いずれの産地もその後再確認されておらず、現状は不明である。今後既知産地の海岸近くの原野や草地を詳細に調査することで再発見されるかもしれない。

【保護対策】海岸環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】牧野富太郎 1905 やりてんつき 最北ノ産地・植物学雑誌 19: 244 / 堀内洋 1996 千葉県に未記録のヤリテンツキの標本を確認する・千植誌資料 7: 41 / 堀内洋 1996 千葉県に未記録のヤリテンツキの標本を確認するー訂正ー 千植誌資料 9: 56 / 千植誌 2003: 861,851,862

【写真】1999.9.24 神奈川県 谷城勝弘 (谷城勝弘)



X シオカゼテンツキ カヤツリグサ科

2009	X
2017	X
2023	X

Fimbristylis spathacea Roth

【種の特性】多年生草本。根茎は太く、枯死した葉を密生する。葉は硬く扁平。苞葉は1~3個で花序よりも著しく短い。小穂は少数ずつ集まり多数つく。果実は広倒卵形で暗褐色。海岸に生える。クジュウクリテンツキに比べて小穂は多数つき、茎は叢生して株をつくり基部は厚く硬い。

【分布】本州（関東地方以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】本県にはこれまで記録がなかったが、千葉県立中央博物館の標本を調査した結果、館山市（1948.11.20 CBM BS-67577、1953.12.18 CBM BS-179168）の2点の標本が確認された。以降、現地での確認記録はない。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みることを望ましい。

【文献】県内での生育状況を記した文献はない

【写真】1953.12.18 館山市 標本: CBM BS-179168

(大場達之/谷城勝弘 追補)



X クジュウクリテンツキ カヤツリグサ科

2009	X
2017	X
2023	X

Fimbristylis spathacea Roth var. *depauperata* T.Koyama

【種の特性】 小型の一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。本州西南部から熱帯にかけて散布するシオカゼテンツキの地方型。母種よりも小型で繊細。海岸性。[Th]

【分布】 本州（上総、遠江）の海岸。一宮海岸を基準産地とする日本固有変種。

【県内の状況】 一宮町で採集した標本（TNS-11120）に基づいて 1955 年に記載された。長生村の海岸に生じ、古くは「千葉県産テンツキ属について」（1939）に記録がある。この中でシオカゼテンツキ *F. cymosa* var. *spathacea* として図示されているものは、小穂の数は少なく全体に繊細であり、植物体各部の計測結果等の記述をみると本変種と判断される。千葉県立中央博物館に長生村（1937 CBM BS-160835）、長生村（1954.9.11 CBM BS-169479）の標本がある。1950 年代以降の記録はない。

【保護対策】 旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みる事が望ましい。

【文献】 牧野富太郎 1911 しほかせてんつきヲ上総一ノ宮海浜ニ得。植物学雑誌 25：229 / 御園勇 1939 千葉県産テンツキ属について。22 頁 / 奥山春季 1947 植物採集覚書。植物研究雑誌 21(7-12)：55 / 小山鉄夫 1955 九十九里テンツキ。植物研究雑誌 30：129 / 小山鉄夫 1958 カヤツリグサ科について。千植誌：172-194 / 千植誌 1958：416 / 新千植誌 1975：461 / 千植誌 2003：863,870 / 千植写真集 2005：345

【写真】 1954.9.11 長生村 標本：CBM BS-169497

（大場達之 / 谷城勝弘 追補）



X イガクサ カヤツリグサ科

2009	X
2017	X
2023	X

Rhynchospora rubra Makino

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。花序は茎頂に密生する頭状花序。刺針は上向き粗造。湿地性。ミミカキグサーイヌノハナヒゲ群目。湿地性。[H]

【分布】 本州（千葉県以西）・本州・四国・九州・琉球。台湾、インドシナ半島、マレーシア、オーストラリア。

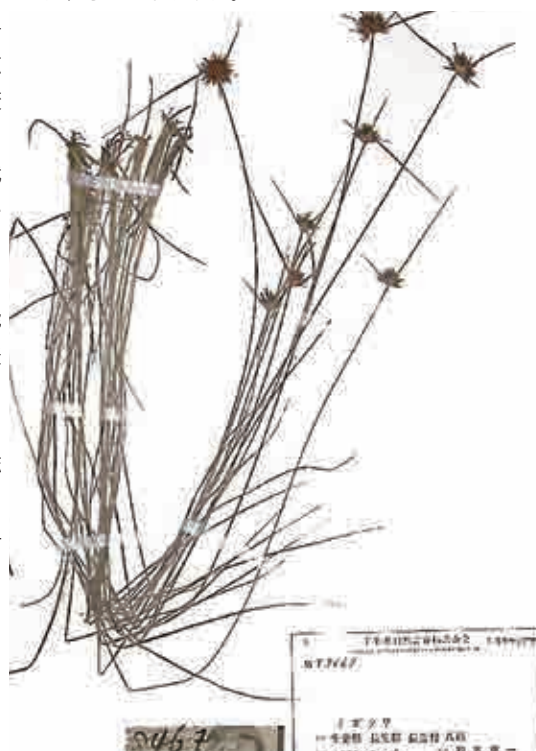
【県内の状況】 茂原市（1952.8.23 CBM BS-85026）、長生村（1957.9.29 CBM BS-8667）での発見があるが、その後は生育が確認されていない。この地域にはかつて広大な湿地帯が存在していたが、現在は人口の集中で宅地の造成などによる土地の改変が顕著に進んでおり、本種をはじめとする湿地性種の生育環境は激減した。1980 年代からの詳細な調査においても発見されていない。

【保護対策】 旧生育地には埋土種子として残っている可能性が高いので、生育の可能性が高い湿地を保全し、場所によっては表土の攪乱などを施して植生発掘を試みることも考えられる。

【文献】 千植誌 1958：417 / 新千植誌 1975：462. / 千植誌 2003：857,850

【写真】 1957.9.29 長生村 標本：CBM BS-8467

（谷城勝弘）

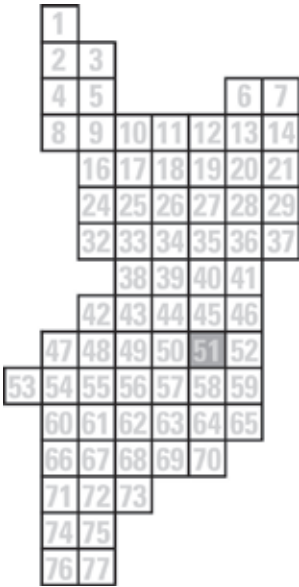


X ケシンジュガヤ カヤツリグサ科	2009	X
	2017	X
	2023	X
<i>Scleria rugosa</i> R.Br.		

【種の特 性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。全体が小さく、白色開出毛がある。ミミカキグサイヌノハナヒゲ群目。[H] 湿地性。

【分 布】本州（千葉県以西）・本州・四国・九州・琉球。湿地にやや稀に生える。

【県内の分布】千葉県植物誌（1958）に茂原市での産地が記録されている。1980年代以降、茂原市～長生村での継続的な調査においても、本種の生育は確認されていない。この地域では近年宅地開発などによる改変が著しく進んでおり、旧生育地は失われたものと思われる。



【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるので、生育可能な環境を保全し、回復を試みるのが望ましい。

【文献】千植誌 195：418／新千植誌 1975：463.／千植誌 2003：849,857

【写真】2001.8.10 愛知県 谷城勝弘（谷城勝弘）



X マネキシンジュガヤ カヤツリグサ科	2009	C
	2017	X
	2023	X
<i>Scleria rugosa</i> R.Br. f. <i>glabrescens</i> T.Koyama		

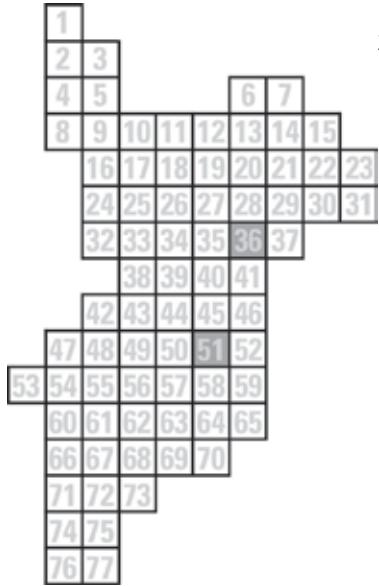
【種の特 性】多年性草本。湿地性。葉は単葉で互生。全体が小さく無毛、風媒で、水散布。[H]

【分 布】本州（千葉以西）・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】茂原市と成東・東金食虫植物群落到記録がある。

【保護対策】近年は確認されないが、かつて記録された生育地とその周辺域に埋土種子が残っている可能性があるため、本種の生育可能な湿地環境を良好に維持し、復元を試みる事が望ましい。

【文献】千植誌 2003：857



【写真】1958.9.23 愛知県 標本：CBM BS-222840（谷城勝弘）



X ヤマトホシクサ ホシクサ科

2009	X
2017	X
2023	X

Eriocaulon japonicum Körn.

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で束生。虫媒で水散布。頭花は帯黒色。総苞片は被針形、頭花より長い同長。葉の下部幅2～3mm。頭花は多花。花床、花弁及び萼は無毛。種子にかぎ毛がない。湿地性（沼畔）。ミミカキグサイヌノハナヒゲ群目。[Th]

【分布】本州（上総、近江）。

【県内の状況】1939年に茂原市、長生村での採集記録が記されている。今日、茂原市～長生村では宅地、工場用地の造成などによる土地の改変が著しく、本種の生育可能な環境が急速に失われつつある。この地域での継続的な調査においても再発見されていない。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があり、また未調査地に生育している可能性も考えられるので生育可能な環境を保全することが望ましい。

【文献】佐竹義輔 1939 植物研究雑誌 15：628 / 奥山春季 1947 植物採集覚書。植物研究雑誌 21(7-12)：54 / 千植誌 1958：407 / 新千植誌 1975：453 / 千植誌 2003 711,700

【写真】1960.10.16 茂原市 国立科学博物館所蔵標本

(谷城勝弘)



X ヒナザサ イネ科

2009	X
2017	X
2023	X

Coelachne japonica Hack.

【種の特性】小型の一年生草本。稈は地上をはい節から発根し、葉は単葉で互生。風媒で水散布。花期は8～10月。向陽の湿地に生育し、西日本では干上がった溜池の底に生える。

【分布】本州・四国・九州。日本特産。向陽の湿地に生育するが全国的にもまれ。

【県内の状況】成東・東金食虫植物群落保護地での1927年10月5日（CBM BS-26433）の標本があるが、同地での近年の確認はされていない。ほかに千植誌（1958）に記載されている茂原市～長生村にかけての湿地の記録を最後に近年の分布確認はされていない。小型で目立たなく、またハイチゴザサと間違えられている可能性もある。絶滅が懸念される。

【保護対策】生育地の酸性貧栄養湿地・池の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 / 新千植誌 1975：466

【写真】1927.10.5 山武市 標本：CBM-BS-26433

(木村陽子)

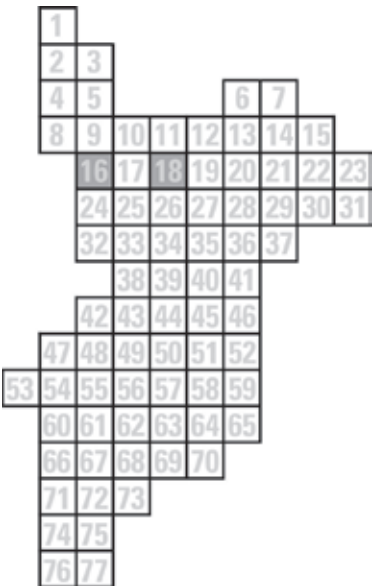


X	コゴメカゼクサ イネ科	2009	A
		2017	X
		2023	X
<i>Eragrostis japonica</i> (Thunb.) Trin.			

【種の特性】水田や低地の湿地に生える1年草。稈高は50～120cmで、束生する。花序は細長い円筒形で、下部は輪生状になる。小穂は3～7小花からなり、護穎は長さ0.7mm、紅紫色をおびる。花期は8～10月。[Th]

【分布】本州（主として中部以南）・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、東南アジア、オーストラリア、インド、アフリカ。西日本では、比較的に見られるが、神奈川県・埼玉県ではまれに分布し、県内でもごく稀で千葉県は分布の端にあたるのだろう。

【県内の状況】松戸市千葉大園芸学部付近に1928～1931年頃の記録がある。その後、



印西市（1969.09.21 CBM BS-135747）の標本があるが、それ以降の情報がない。

【保護対策】低地の湿地、水田近くに生育するので、立地の確保が望まれる。

【文献】本田正次 1933 松戸附近植物目録 千葉高等園藝学校学術報告第2号：61-92 / 新千植誌 1975 466 / 千植誌 2003：737,745

【写真】1969.9.21 印西市 標本：CBM BS-135747

（木村陽子）

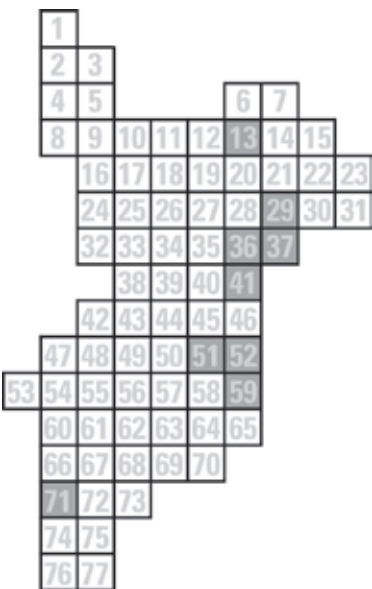


X	ヒメキンポウゲ キンポウゲ科	2009	A
		2017	X
		2023	X
<i>Halerpestes kawakamii</i> (Makino) Tamura			

【種の特性】多年生草本。虫媒で水散布。高さ3～10cm。葉は単葉で互生、卵円形で先端に3個の切れ込みがある。地表に細長い匍枝を延ばして広がる。花は黄色で8月に咲き、果実は9～10月に熟す。海岸の潟湖の汽水域の湿った砂～砂泥地に生え、シバナ群集などの多年生草本群落の前縁、または多年生草本群落の間の裸地に生える。マリティマイ群綱。[H]

【分布】本州（千葉県から青森県にかけての海岸）。本州の固有種。

【県内の状況】一宮町から匝瑳市にかけての九十九里沿岸、一宮川、栗山川などの河口に分布。一宮川河口に産することは古くから知られ、新版千葉県植物誌には匝瑳市、山武市、九十九里町、大網白里市、長生村、一宮町などの産地が挙げられており、かつては九十九里全域に広く分布していたことが知れる。千葉県立中央博物館には1947年、1956年、1957年、1958年に採集された標本がある。最新の記録としては1968年6月30日に吉川代之助により九十九里（地名は不明）で採集された標本がある。1996年9月の長生村における綿密な調査においても発見されず、また1996年9月～11月にかけての九十九里沿岸のフロラ調査においても、どこからも発見されなかった。河口の改修などによって環境が変化し、県内では絶滅したものと考えられる。潟湖の汽水域における潮間帯上部の限られた生育環境が、護岸などによって失われたことが直接の原因である。生育に好適な環境は潮間帯最上部の傾斜がごく緩やかで、しかも貧栄養で、砂と泥の混合比が適当であることを要し、そのような環境は面積的に限られている。日本のほかの産地でも減少が著しい。



【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、再生を促すことも考えられる。

【文献】新千植誌 1975：424. / 千植誌 2003：197,205

【写真】2004.6 宮城県 谷城勝弘
（大場達之／谷城勝弘 追補）



X ヒメバイカモ キンポウゲ科

2009	X
2017	X
2023	X

Ranunculus kazusensis Makino

【種の特性】沈水性の二年生草本、環境によっては一年生、冬から春にかけて茂り夏には枯れるが、熊本市水前寺公園のように冷涼な湧水に涵養されるところでは夏にも存続し多年生となる。葉は3出複葉で互生。通常沈水葉だけをつけるが、キクモのように陸生形となることもある。虫媒で水散布。バイカモに似るが全体小型で特に花柄が1-3cmと短かく、花托に毛がある。水田および周囲の水路、池・沼に生える。熊本市では阿蘇からの湧水地に見られる。バイカモ群団。[HH]

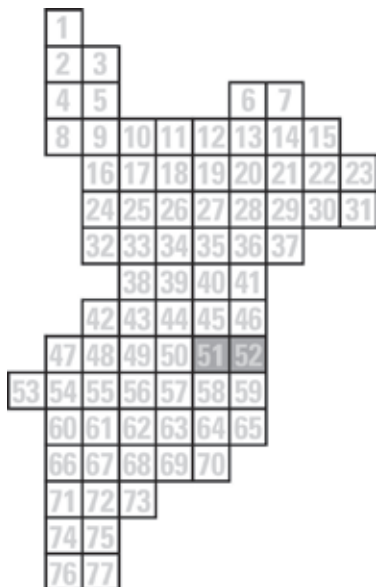
【分布】本州（宮城、千葉、埼玉、山口）・九州。朝鮮。一宮町の水田で採集した標本に基づき記載された種類で、千葉県は基準産地となる。

【県内の状況】九十九里沿岸にのみ知られ、山武市、茂原市〜長生村、一宮町などの記録があり、最も新しい標本は一宮町（1935 原寛 TI）と同町（1935 富樫誠 TI）である。

【保護対策】現在消息不明であるが、分布域の精査により再発見の可能性がある。もし残存個体があれば、生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】Makino, T. 1929 J. Jpn. Bot. 4 : 8 / 牧野富太郎 1950 図説普通植物検索表. 11 図版 / Wiegand, G. 1988 Notes on Japanese *Ranunculus* subgenus *Batrachium*. Act. Phytotax. Geobot. 39 : 117-132 / 角野康郎 (1994) 日本水草図鑑 : 105 / 千植誌 2003 : 198, 206

【写真】2004.5.11 仙台市 谷城勝弘
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



X バイカモ キンポウゲ科

2009	X
2017	X
2023	X

Ranunculus nipponicus (Makino) Nakai var. *submersus* H.Hara

【種の特性】多年生草本。葉は複3出複葉で互生。沈水葉は細かく裂ける。虫媒で水散布。水面に5弁の白い花を咲かせる。花弁基部は黄色である。清らかな流水に生える。バイカモ群団。[HH]

【分布】北海道・本州。

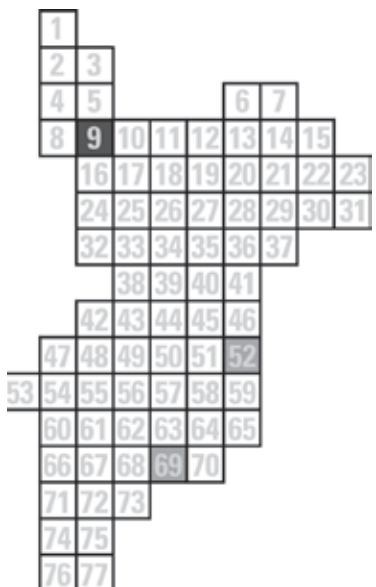
【県内の状況】柏市、鴨川市の記録があるが、近年は観察されていない。絶滅したものと考えられる。

【保護対策】分布域の精査により再発見の可能性がある。

【文献】Wiegand, G. 1988 Notes on Japanese *Ranunculus* subgenus *Batrachium*. Act. Phytotax. Geobot. 39 : 117-132 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑 104

【写真】1990. 富山県 大場達之

(大場達之 / 天野誠)



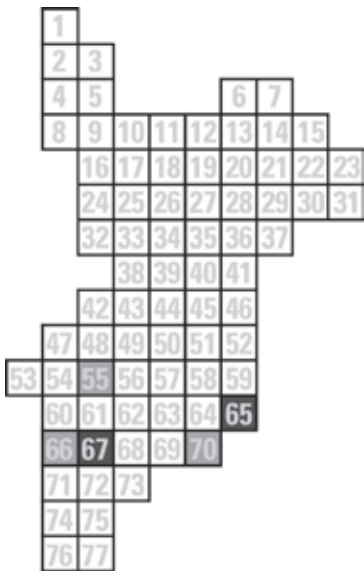
X イワレンゲ ベンケイソウ科

2009	X
2017	X
2023	X

Orostachys malacophylla (Pall.) Fisch. var. *iwarenge* (Makino) H.Ohba

【種の特 性】 通常、直径 7 cm 程度のロゼットを形成する常緑の一回稔性多年生草本。開花前に栄養繁殖する。開花株の高さは 10 ～ 30 cm。海岸の岩場などに生える。かつては茅葺き屋根などにも生えていた。太い主根から細い根を出す。葉は倒卵形で、鋭頭、らせん葉序。葉は全縁で、無毛、多肉。花は秋に咲く。花は密な総状花序につく。花柄は約 10 mm。花は 5 数性で、萼片は狭卵形で、鋭頭。花弁は、倒披針形。白色で、長さ約 5 mm。雄しべの数は 10 本、葯の色は黄色。離生心皮は 5 つ。果実は蒴果で、熟すと上部から裂ける。虫媒で、風散布。エゾオオバコーウシノケグサ群綱。[H]

【分布】 本州。



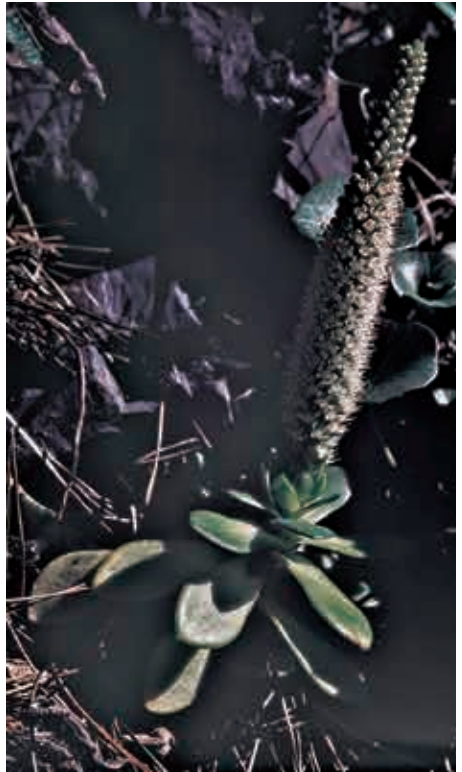
【県内の状況】 富津市、君津市、山武市、鋸南町、いすみ市などで記録されているが、近年は報告がない。かつては茅葺きなどの屋根に生えていたが近年は見られない。絶滅が心配される。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 亘理俊次 1982 日本の野生植物草本Ⅱ：PL.141. / 亘理俊次 1992 芝棟. 屋根の花園を訪ねて：97. / 千植誌 1958 372 / 新千植誌 1975 415 / 千植誌 2003 244,250

【写真】 1934 山武市 栽培

(大場達之/天野 誠 追補)



X タチモ アリノトウグサ科

2009	X
2017	X
2023	X

Myriophyllum ussuriense (Regel) Maxim.

【種の特 性】 水中または湿地に生える多年生草本。茎は分岐せず、葉は節に 3 ～ 4 個輪生する。雌雄異株。雄花も雌花も葉腋に小さな花を 1 個つける。水中に生えるものは長さ 50cm 前後に成長するが、湿地に生えるものは 10 cm 程度にしかならない。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。中国、ロシア東部、北米北部。

【県内の状況】 山武市成東・東金食虫植物保護地（1928.06.28 CBM BS-25218）、長生村（1934.07 CBM BS-178610；1935.09.29 CBM BS-5534；1937.07 CBM BS-233994）、

印旛郡印旛沼（1940.07.21 CBM BS-166047）の標本が千葉県立中央博物館にある。その後は発見されていない。本種は貧栄養の池沼やその岸辺を生育の適地とするが、県内の各池沼では富栄養化が著しく進行しており、消滅したと考えられる。

【保護対策】 富栄養化の進行を抑え、植物の多様性に富む水域を復活させることが望ましい。

【文献】 植物誌 2003：405,400

【写真】 1940.7.21 印旛沼 標本：CBM BS-166047

(谷城勝弘)



X ヤマシャクヤク ボタン科

2009	X
2017	X
2023	X

Paeonia japonica (Makino) Miyabe & Takeda

【種の特性】 やや大形の多年生草本。茎は高さ 30 ～ 40cm。葉は 3 出複葉で互生。花は白色で大きく 5 月に上向きに咲く。虫媒で重力散布。肥沃で適湿な夏緑林の林床に生える。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】 本州（関東・中部以西）・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】 佐倉市と山武市に記録があるが標本は見えていない。

【保護対策】 花が美しいので観賞用に採取される可能性が高く、採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975：423

【写真】 1985 神奈川県
大場達之

(大場達之／天野誠)



X コチャルメルソウ ユキノシタ科

2009	X
2017	X
2023	X

Mitella pauciflora Rosend.

【種の特性】 小型の夏緑の多年生草本。沢沿いの湿った林に見られ、ブナ帯に主として分布する。根茎が発達し、数本の花茎を立てる。葉はほぼ根出葉、長柄がある。卵形で、荒く不規則に切れ込む。両面に剛毛が生える。花序は総状で、頂生する。花は 5 数性。萼片は卵形で、反り返る。花弁は魚骨状で、長さ 2 ～ 3 mm、緑色。雄しべは花糸が短く、葯が黄色で目立つ。雌しべは 2 心皮で、離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で、水散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

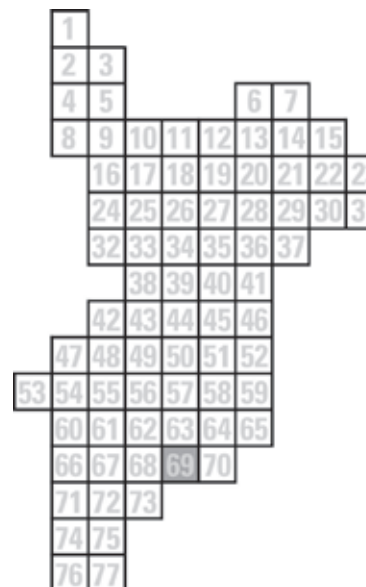
【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 新千植誌では東大所蔵の清澄山の記録があるが、東大では標本が確認できなかった。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958：372 / 千植誌 2003：256, 263

【写真】 1986.4 広島県 大場達之
(大場達之／天野 誠 追補)



X	エゾノタチツボスミレ	スミレ科	2009	X
			2017	X
			2023	X

Viola acuminata Ledeb.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で虫散布。日本産のスミレとしては大形で果実期には高さ 40cm に達する。明るい夏緑林から草原に生える。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】北海道・本州（中部以北）。朝鮮、中国、ロシア極東部、東シベリア。

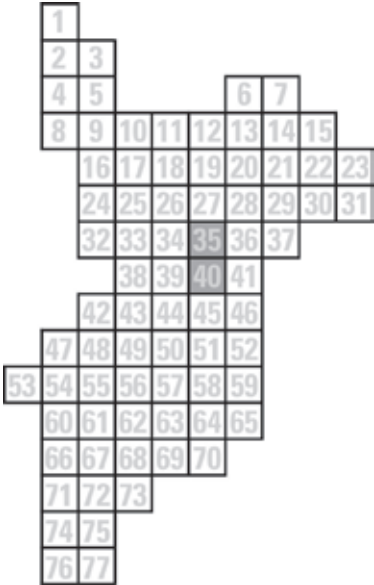
【県内の状況】古くは山武市（1933）と千葉市（1951）からの記録があり、標本は千葉県立中央博物館に収蔵されている。その後いすみ市などからの報告があるがタチツボスミレの誤認と考えられる。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：395／千植誌 2003：377, 383

【写真】1975.5. 長野県 大場達之

(大場達之／谷城勝弘 追補)



X	オオメヤブマオ	イラクサ科	2009	
			2017	X
			2023	X

Boehmeria maximowiczii Nakai & Satake

【種の特性】大型の多年性草本。葉は浅く3裂する。風媒で、重力散布。花期は、8月～10月。林縁に生育する。[H]

【分布】本州・四国・九州

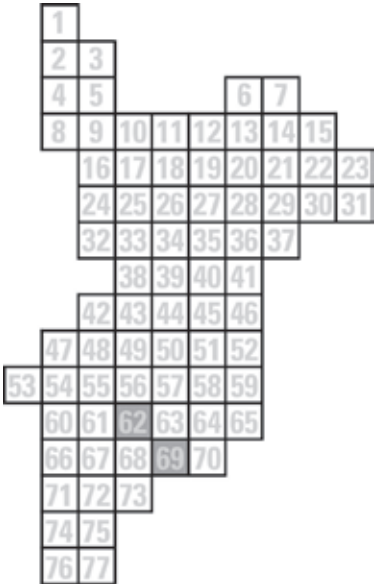
【県内の状況】君津市で1933年7月8日に採集された標本（CBM BS-485）と鴨川市で1936年7月19日（CBM BS-212581）および1947年8月23日（CBM BS-182351）の標本があるが、いずれでも近年の確認はされていない。

【保護対策】生育地の林縁を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003: 130

【写真】1947.8.23 鴨川市 標本: CBM BS-182351

(天野誠)



X ミズスギナ ミソハギ科

2009	X
2017	X
2023	X

Rotala hippuris Makino

【種の特性】 沈水性の多年生草本。葉は単葉で輪生、細かく裂ける。虫媒で水散布。花は水中で咲くので水媒性と考えられる。日本固有種と考えられているが、中国からインドにかけて近似の種類があり、今後比較検討が必要である。池・沼に生える。ヒルムシロ群網。[HH]

【分布】 本州（関東以西～近畿）・九州。

【県内の状況】 1928年に山武市と神崎町で採集されているが、その後の記録は見られず、絶滅したものと考えられる。

【保護対策】 旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるの

で、生育可能な環境を保全し、回復を試みる事が望ましい。

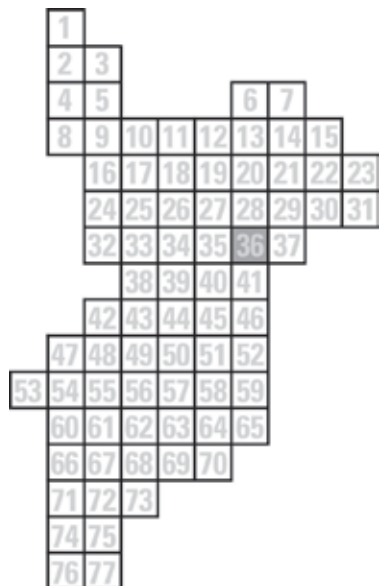
【文献】 與世里盛春 1932 千葉県植物 22 図版／千植誌 2003 :

392, 388

【写真】 1928. 6.16 山武市標

本 : CBM BS-25269

(大場達之／天野誠)



X ミズタガラシ アブラナ科

2009	X
2017	X
2023	X

Cardamine lyrata Bunge

【種の特性】 中形の多年生草本。機器は高さ 30～60cm で、花のあと倒伏する、花の時期に、茎の基部から長い匍匐枝を出す。花は 4～5 月で白色。花弁は萼片の 2～3 倍の長さがある。虫媒で自散。(H)。水田や湿地に生える。

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮・中国・モンゴル・東シベリア・極東ロシア。

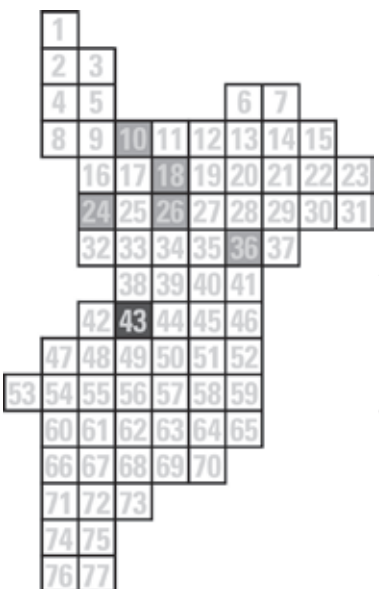
【県内の状況】 市川市、印旛沼周辺などに知られていたが 1940 年以降記録がない。船橋市の記録もあるが標本がなく確認できない。

【保護対策】 絶滅の原因が明らかでないで、残存する他県での生育状態を調べて情報を収集する必要がある。富山県などでは水田に一面に生えているところがあるという。

【文献】 寺崎留吉 1933 寺崎日本植物図譜 218／千植誌 2003 : 247, 243／平凡社版日本の野生植物 II.PL.127 の写真はタネツケバナの誤りと考えられる

【写真】 1940.7.21 印旛沼 標本 : CBMBS-166048

(大場達之／天野誠)



X ハナハタザオ アブラナ科

2009	X
2017	X
2023	X

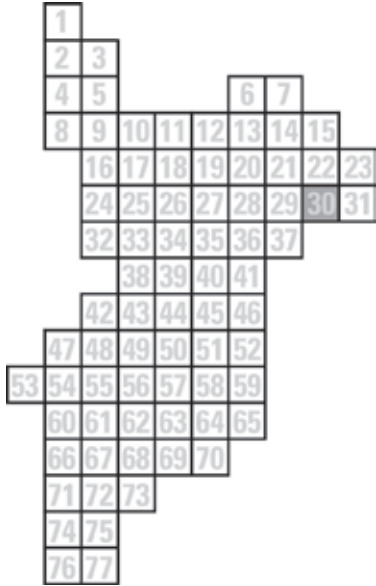
Dontostemon dentatus (Bunge) Ledeb.

【種の特性】二年生草本。茎は直立し高さ 15 ～ 60cm。葉は単葉で互生。花は 6 ～ 7 月に咲き紅紫色。虫媒で風散布。乾いた岩棚、崩壊地の周辺、砂地、礫地などのオープンな環境に生える。[Th]

【分布】本州（東北、関東、中部）。中国、サハリン、ロシア極東部。

【県内の状況】旭市と東金市で採集された標本があるが、近年の記録はない。限られた環境に少数の個体が生えるだけなので絶滅したものと考えられる。

【保護対策】かつての生育地の環境を明らかにする必要がある。



【文献】新千植誌 1975 : 418 / 千植誌 2003 : 250, 243

【写真】2001 茨城県
大場達之
(大場達之／天野誠)



X ムジナモ モウセンゴケ科

2009	X
2017	X
2023	X

Aldrovanda vesiculosa L.

【種の特性】食虫浮遊性の多年生草本。葉は単葉で輪生。花は 7 ～ 8 月に開き、5 弁で白緑色。虫媒で水散布。貧栄養の酸性の水域に浮かぶ。ウキクサ群綱。[HH]

【分布】利根川水域、淀川水域、信濃川水域。アムール、インド、ヨーロッパ。日本の自生地ではすべて絶滅し栽培品が残るだけで、埼玉県羽生市で放流が試みられているが成功していない。

【県内の状況】古くは 1890 年に市川市で採集された標本がある（国立科学博物館 -6293）。また香取市、山武市の報告があるがいずれも絶滅。山武市のものは移植によるものであった可能性が強い。香取市の産地（埋め立てられて現存しない）は、利根川対岸の霞ヶ浦地域には数ヶ所の自生地が知られていたため、それらと一連の分布であったと考えられる。千葉県産のものはすべて原産地において絶滅し、栽培個体も残っていない。



【保護対策】もし県内産の系統が発見されたら水生植物園のような施設で種の存続をはかることが望ましい。

【文献】佐原町誌 1931 91. 佐原町／腰野文男 1959
佐原市の食虫植物．佐原総説一シリーズ第 2 輯。34 頁。佐原市／小宮定志 1988 ムジナモの分布の変遷と現況、保護方策。水草研究会会報 33・34 : 25-26 / 千植誌 2003 : 219, 223

【写真】2004.8.11 埼玉県栽培 大場達之
(大場達之／天野誠)



X ナガバノヤノネグサ タデ科

2009	
2017	X
2023	X

Persicaria brevichoreata (Makino) Ohki

【種の特性】 小型の一年性草本。葉は、長楕円状披針形。花序は、分枝して、まばらに花を付ける。虫媒で、重力散布。花期は、7月～10月。沢の湿った林縁に生育する。[Th]

【分布】 本州・九州。朝鮮。

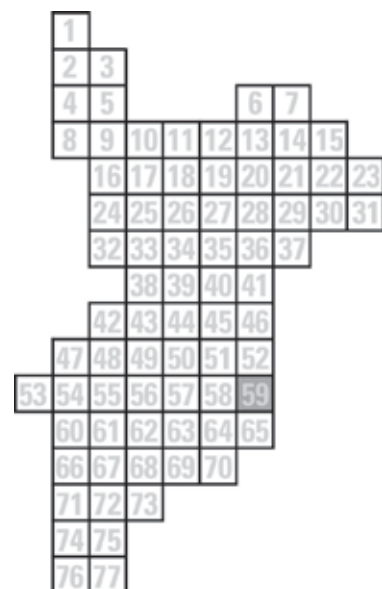
【県内の状況】 いすみ市で1933年11月15日に採集された標本（CBM BS-191704）がある。

【保護対策】 生育地の湿った林縁などを良好に維持することが望ましい。

【文献】 米倉浩司 2017 改訂新版日本の野生植物 4:93

【写真】 1933.11.15 いすみ市
標本：CBM BS-191704

(天野誠)



X サワトラノオ サクラソウ科

2009	X
2017	X
2023	X

Lysimachia leucantha Miq.

【種の特性】 多年生草本。茎は直立し30～50cm。茎の上部に総状に白い花を多数つける。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。湿地に生える。オギーヨシ群団。[HH]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

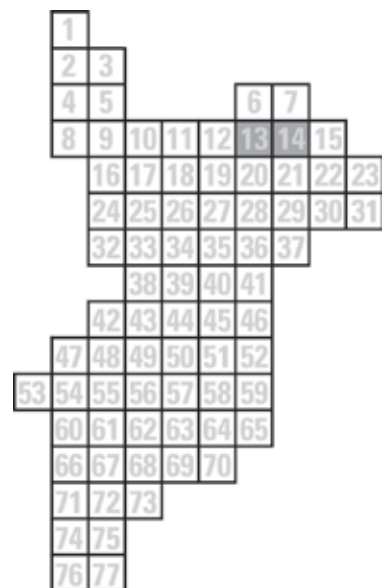
【県内の状況】 利根川沿いの氾濫原などに生え、香取市と印西市の報告があるほか山武市にもあったというが確認できない。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975：386／千植誌 2003：436, 439

【写真】 1991.5.18 静岡県 標本：CBM BS-134772

(大場達之／天野誠)



X チョウジソウ キョウチクトウ科

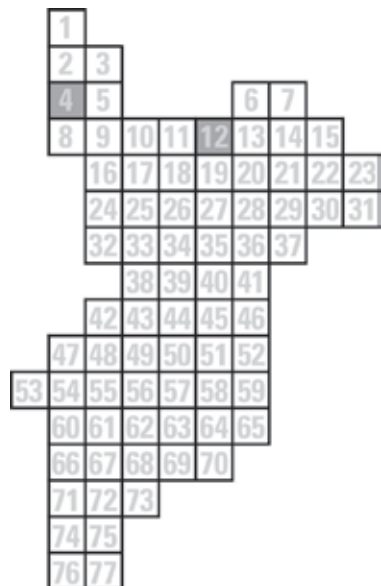
2009	X
2017	X
2023	X

Amsonia elliptica (Thunb.) Roem. & Schult.

【種の特性】多年生草本。地下茎があって群れて生える。茎は直立し上部で枝を分かち、葉は単葉で互生、花は4～6月に咲き、紫色で、主茎の先端に集散状につける。虫媒で水散布。地下に根茎を引き群生する。河川氾濫源の湿原あるいはハンノキ林の下に生える。[G] ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】利根川沿岸の野田市、成田市、我孫子市で採集された標本があるが、1959年以降記録されていない。



【保護対策】利根川の氾濫源の生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：383
／千植誌 2003：462, 454

【写真】2002 茨城県
大場達之
(大場達之／天野誠)



X クサタチバナ キョウチクトウ科

2009	X
2017	X
2023	X

Vincetoxicum acuminatum Decne.

【種の特性】中形の夏緑多年生草本。茎は直立し高さ30～60cm。葉は対生し長楕円形～卵形。花は6月に咲き、白色で茎の頂端と上部の葉腋につき、小散状花序が集まる。果実は長い袋状。虫媒で風散。普通ブナ帯の夏緑林の林床あるいは、日あたりの好い草地にやや群れて生える。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。サハリン、朝鮮、中国東北部、プリモリア。

【県内の状況】柏市で1967年5月26日に採集されているが、現存するかどうか疑問である。千葉県産は寒冷期の遺存と考えられる。



【保護対策】詳細な現地調査が必要である。

【文献】千生誌 (1968) 17(1-2)：14 /
千植誌 2003：464, 455

【写真】群馬県 大場達之
(大場達之／天野誠)



X カイジンドウ シソ科	2009	X
	2017	X
	2023	X

Ajuga ciliata Bunge var. *villosior* A.Gray

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で重力散布。自然～半自然草原に生える。[H]

【分布】北海道・本州・九州。

【県内の状況】県北部のススキ草原に見られたが、現在は記録がない。最も新しい記録は1952年である。

【保護対策】管理されたススキ草原を復元することが望ましい。

【文献】寺崎留吉 1933 日本植物図譜：268／若名東一 1933 上総国日向村植物目録／千植誌 2003：489, 493

【写真】1928.5.13 市川市 標本：CBM BS-191177

(大場達之／天野誠)



X ムシャリンドウ シソ科	2009	X
	2017	X
	2023	X

Dracocephalum argunense Fisch.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。花は夏に咲き青紫色。虫媒で重力散布。乾き気味の自然～半自然草原に生える。北海道では海岸付近の草原に多い。[H] ススキ群目。

【分布】北海道・本州。朝鮮。

【県内の状況】八街市、長生村、一宮町などの記録があるが、近年は観察されていない。最も新しい記録が八街市の1935年である。ススキ草原の衰退とともに減少したものであろう。

【保護対策】人為的な刈り取りにより管理された半自然の草地进行を保全することが望ましい。

【文献】新千植誌
1975：376／千植誌
2003：506, 510

【写真】
1987.6.7. 青森県
福田洋
(大場達之／天野誠)



X セキヤノアキチョウジ シソ科

2009	X
2017	X
2023	X

Rabdosia effusa (Maxim.) H.Hara

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で重力散布。夏緑林の日陰の林縁に生える。空中湿度の高い谷筋に多く見られる。低地遺存ブナ帯要素。フジアザミヤマホタルブクロ群団。[H]

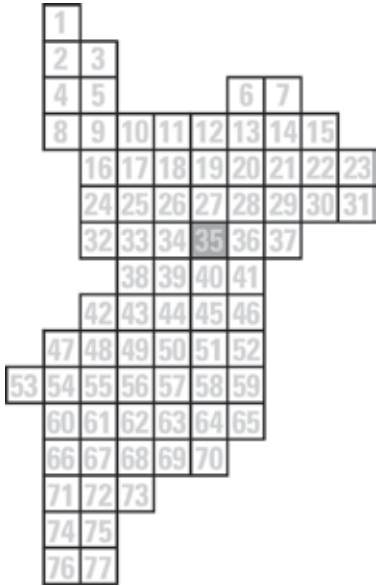
【分布】本州（関東～中部の太平洋側）。それより西では近縁のアキチョウジに置き換わる。

【県内の状況】鴨川市での採集記録があるほか、山武市での採集標本が千葉県立中央博物館に複数あるが、1956 年を最後としてその後の記録は見られない。

【保護対策】現在消息不明であるが、山武市などには生育可能な谷津の斜面が多く残されており、今後の精査によっては再発見の可能性は残されている。

【文献】新千植誌 1975：378 / 千植誌 2003：492, 495

【写真】1998 長野県 大場達之
(大場達之／天野誠)



X コナミキ シソ科

2009	X
2017	X
2023	X

Scutellaria guilielmi A.Gray

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。細い地下茎を伸ばして増える。花は白色で5月に咲く。海岸近くの草地あるいは明るいクロマツ林の下などに生える。[H]

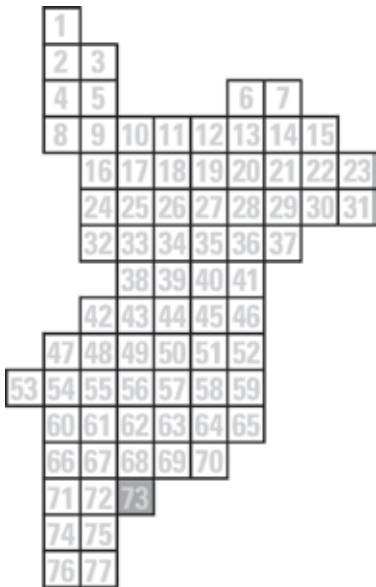
【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】1937 年に南房総市の海岸で採集し、1974 年にはその産地が海岸の道路工事で失われたことを報告している。この地点はコナミキの北限産地であった。その標本は千葉県立中央博物館に収蔵されている。

【保護対策】再生は困難であろう。

【文献】浅野貞夫 1951 房州にコナミキ自生す．採集と飼育 13(9)：293-294 / 浅野貞夫 1974 房総半島から消えた東限産地のコナミキ．植物採集ニュース 74：25 / 千植誌 2003：490, 494

【写真】1938.6 南房総市 標本：CBM BS-145052
(大場達之／天野誠)



X ナミキソウ シソ科

2009	X
2017	X
2023	X

Scutellaria strigillosa Hemsl.

【種の特性】 小～中型の夏緑多年生草本。細い地下茎を広げ群れて生える。葉は単葉で対生。花は夏で、上部の葉脇に青紫色の花をつける。虫媒で風散布。海岸の砂浜および湿原に生える。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、千島、サハリン、アムール、ウスリー。

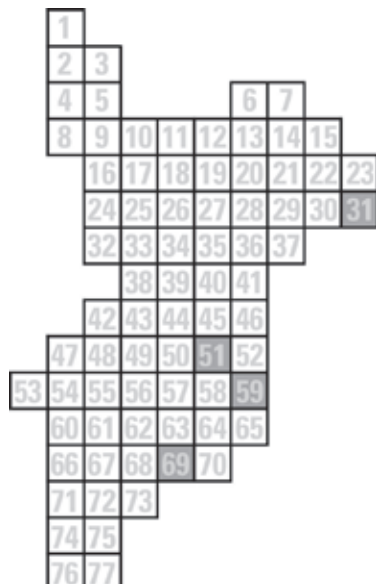
【県内の状況】 茂原市～長生村、鴨川市、銚子市での記録がある。

【保護対策】 生育環境の海岸を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：490, 494

【写真】 1957.5.29 鴨川市 標本：CBM
BS-179725

(大場達之／天野誠)



X ヒメタヌキモ タヌキモ科

2009	X
2017	X
2023	X

Utricularia minor L.

【種の特性】 食虫性の多年生草本。葉は羽状で互生。花は淡黄色であるが開花は稀である。虫媒で水散布。タヌキモに似て繊細。貧栄養の酸性の浅い水域に生える。コタヌキモーヒメタヌキモ群綱。[HH]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。ユーラシアと北米に広く分布。

【県内の状況】 長生村、山武市（1951）、銚子市、手賀沼（1926 大阪市立自然史博物館標本）などから知られているが、近年の記録は見られない。絶滅したものと推定される。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。特に水質の維持が大切である。

【文献】 Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9：192-195 / 千植誌 2003：545, 549

【写真】 2004.7 宮城県 大場達之

(大場達之／天野誠)



X クチナシグサ ハマウツボ科

2009	X
2017	X
2023	X

Monochasma japonicum Makino

【種の特性】半寄生性の二年生草本。葉は単葉で対生。茎は地表をわずかに斜上し、葉とともに紫褐色を帯び、細かな毛が多い。花は4～5月に咲き、白色。虫媒で虫散布。夏緑林、特にクヌギ・コナラなどの二次林に生える。[Th] 別名カガリビソウ。

【分布】本州・四国・九州。

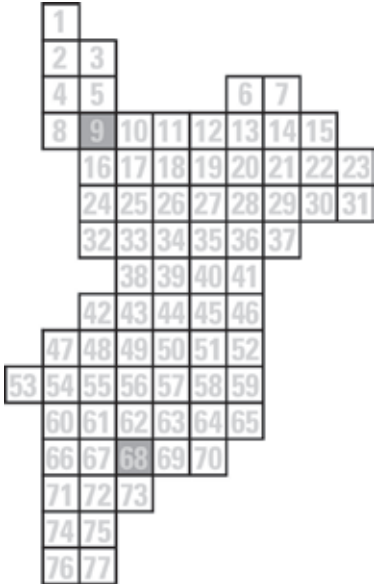
【県内の状況】かつては稀なものではなかったが、里山の二次林が管理されなくなってから極めて稀になっている。柏市、松戸市、八街市、東金市、茂原市、鴨川市などからの記録があるが、地名の記述が不足なので、分布図に表示できないデータが多い。

【保護対策】生育地の二次林のアズマネザサなどを刈り取り、林床を明るく保つことが望ましい。

【文献】篠崎信四郎 1929 東京植物同好会の下総手賀沼採集行. 植物研究雑誌 6 : 362-366 / 新千植誌 1975 : 373 / 千植誌 2003 : 536, 527

【写真】1982.5 奈良県 大場達之

(大場達之/天野誠)



X ムラサキ ムラサキ科

2009	A
2017	X
2023	X

Lithospermum erthrorhizon Siebold & Zucc.

【種の特性】高さ40～90cmの夏緑の多年生草本。乾燥した日当たりのよい草原に生育する。根は長倒円錐形で、乾かすと濃い紫色となり、台紙を紫色に染める。茎は円筒形で、剛毛が生える。葉は互生、長楕円形で、3脈が目立ち、両面に荒い毛が生える。葉柄は短い。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花冠は白色、花筒は短い、径3～4mmで、喉部に黄色い鱗片がつく。果実は白くて光沢のある小堅果で、ほぼ球形、1花に4つつく。虫媒で重力散布。ススキ群目。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

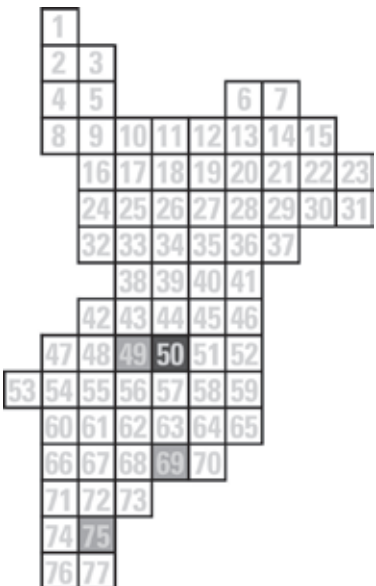
【県内の状況】ススキの刈り取り草原に多く見られたが、カヤ刈場が少なくなり、ススキ草地の管理が行われなくなってから激減している。千葉県植物誌には多くの産地が記録されているが、最新の記録は1979年の高塚山での観察と考えられる。清澄山、長南町笠森、鴨川市等の標本が千葉県立中央博物館に所蔵されている。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。半自然草原を保全することが望ましい。

【文献】川名興・伊藤哲夫 1979 冬虫夏草 14 / 千植誌 2003 : 473, 484

【写真】1986 千葉市栽培 福田洋

(大場達之/天野 誠 追補)



X ハマベンケイソウ ムラサキ科

2009	
2017	X
2023	X

Mertensia maritima (L.) Gray subsp. *asiatica* Takeda

【種の特性】 中型の匍匐性の多年性草本。葉は、長楕円形から広卵形、青白色で厚い。花冠は青紫色で、釣鐘形。虫媒で、海流散布。花期は、7月～8月。砂浜に生育する。[G]

【分布】 北海道・本州。朝鮮、千島列島、サハリン、ロシア（オホーツク海沿岸）。

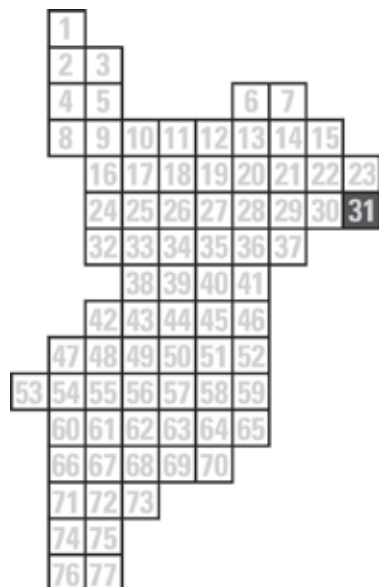
【県内の状況】 銚子市で2008年7月12日（CBM BS-267348）と2008年7月27日（CBM BS-267349）に採集された標本がある。その後、当該生育地に数度、調査に行ったが、消失していた。一時的定着と思われる。

【保護対策】 生育環境の海岸を良好に維持することが望ましい。

【文献】 鶴岡繁・木村陽子 2008 千植誌 24 226-228 / 米倉浩司 日本の野生植物 5 p.55

【写真】 2010.6.15 銚子市 谷城勝弘

(天野誠)



X オクモミジハグマ キク科

2009	X
2017	X
2023	X

Ainsliaea acerifolia Sch.Bip. var. *subapoda* Nakai

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で掌状に切れ込み、互生であるが輪生状に茎の中部に集まりつく、葉はやや扁平な円形で掌状に切れる。花は9～10月に咲き、茎の先に穂状に付き、総苞は長さ12～15mmで、総苞片は5列、筒状花は白色。虫媒で風散布。[G]。ブナ帯の中性～やや乾いた夏緑林あるいはモミ林などに生える。ブナ群綱。

【分布】 本州。

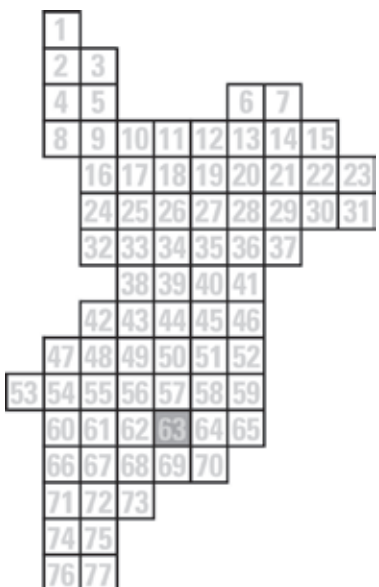
【県内の状況】 千葉市、東金市と大多喜町での採集記録がある。

【保護対策】 生育環境の林床を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千生誌 1958：309 / 千植誌 2003：590, 572

【写真】 1991.8.26 福島県 標本：CBM BS-143633

(大場達之／天野誠)



X ホソバニガナ キク科

2009	
2017	X
2023	X

Ixeris beauverdianum (H.Lév.) Springate

【種の特性】 小型の多年性草本。ニガナに似るが、葉は茎を抱かない。葉は、線状披針形。頭花1つの小花は5つ。虫媒で、風散布。花期は、5月から8月。湿地に生育する。ススキ群綱。[H]

【分布】 本州・四国・九州。中国、ヒマラヤ。

【県内の状況】 我孫子市で1936年6月18日に採集された標本（CBM BS-200425）がある。柏市で1966年に採集した記録がある。

【保護対策】 生育地の湿地などを良好に維持することが望ましい。

【文献】 伊藤至 1966 植物採集ニュース
千植誌 2003 648-649

【写真】 1984.10.15 愛知県 標本：CBM
BS-201970

(天野誠)



X タカサゴソウ キク科

2009	X
2017	X
2023	X

Ixeris chinensis (Thunb.) Nakai subsp. *strigosa* (H.Lév. & Vaniot) Kitam.

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生し白緑色、へら状倒披針形であらい欠刻または歯牙がある。花は4～5月で、高さ20～40cmの茎を複数直立させて、上部に花を群がりつける。頭花は舌状を20個内外つけ淡紫色、虫媒で風散布。草原に生える。ススキ群綱。[H]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】 清澄山、君津市、鹿野山、八街市などで採集されているが1951年の記録を最後に消息不明。

【保護対策】 千葉県における生育環境が明らかでない。近接他県での生育環境を調べる必要がある。

【文献】 千植誌 2003：648, 640

【写真】 1951.5.4 清澄山 標本：CBM BS-95679

(大場達之／天野誠)



X ミコシギク キク科

2009	X
2017	X
2023	X

Leucanthemella linearis (Matsum.) Vorsch.

【種の特性】多年生草本。茎は直立。葉は単葉で互生し、羽状にやや深く裂ける。舌状花は白色。虫媒で水散布。地下茎を引いて繁殖する。種子はできないといわれる。湿原に生える。[HH]。

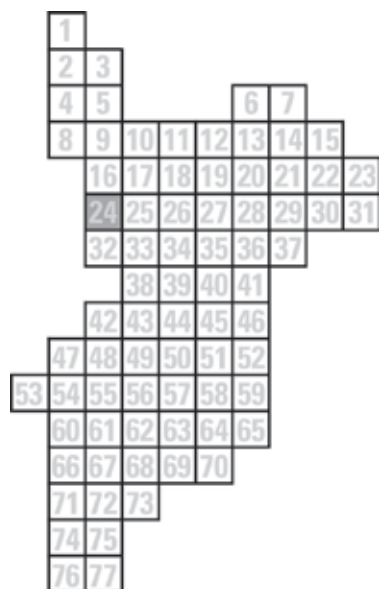
【分布】本州（茨城県以西）・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】下総産の標本（K. Okada 1895 年 10 月採集 東京大学）に基づいて命名された。当時の下総は茨城県南部の一部が含まれていたが、千葉県が基準標本産地である可能性が高い、その後県内からは採集されていない。下総のどこで採集されたかは明らかではないが、その頃の採集家の行動からすると、現市川市付近であろうと推定される。

【保護対策】最初で最後の記録から既に 100 年を経過しているが、詳細な原産地の究明が必要である。

【文献】松村任三 1899 植物学雑誌 13：83
／北村四郎 1967 日本の野生菊の分布に関する報告．植物分類地理 22(4-6)：109-137
／千植誌 2003：616, 611

【写真】1979.10.8 岐阜県 標本：CBM BS-129053
(大場達之／天野誠)



X フクオウソウ キク科

2009	X
2017	X
2023	X

Prenanthes acerifolia (Maxim.) Matsum.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。根生葉は心形～卵状心形で粗い欠刻がある。茎は高さ 40～60cm で花序は円錐状、頭花は下垂して咲き、青紫色を帯びた白色。虫媒で風散布。主としてブナ帯のブナ林あるいはミズナラ林の、斜面の動きやすい林床の土壌あるいは日陰の林縁に生え、千葉県のものは寒冷期の遺存的なものか、林木の苗などに付着して移入されたものであろう。[G]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】1936 年に一宮町で記録しているほか、市原市にもあるというが証拠標本は確認されていない。

【保護対策】生育地の林床を良好に維持することが望ましい。

【文献】千葉県自然環境保全地域等変遷調査報告書 1985／千植誌 2003：646, 637

【写真】1990.10.14 茨城県 標本：CBM BS-108311
(大場達之／天野誠)



X ヒメヒゴタイ キク科		2009	X
<i>Saussurea pulchella</i> (Fisch. ex Hornem.) Fisch.		2017	X
		2023	X

【種の特徴】2年生～多年生草本。高さ80cm以上になる。葉は単葉で羽状に裂け互生。花は8～9月に咲き紅紫色。虫媒で風散布。ススキ草原に生える。ススキ群綱。[Th～H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、サハリン、アムール、ウスリー。

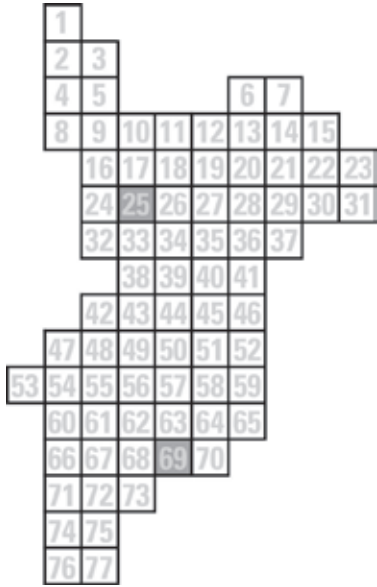
【県内の状況】1952年に津田沼付近の大和田（八千代市？）で記録したほか、清澄山の記録がある。

【保護対策】刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。

【文献】久内清孝 1952 植物研究雑誌 27：336 / 千植誌 2003：574, 566

【写真】1955.10.16 神奈川県 神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵標本

(大場達之／天野誠)



EW センニンモ ヒルムシロ科

2009	EW
2017	A
2023	EW

Potamogeton maakianus A.Benn.

【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は単葉で互生〜対生、線形。風媒で水散布。無柄で葉縁には鋸歯があり基部は托葉と合着して2〜6mmの葉鞘となる。湖沼、ため池、水路等に生える。[HH] ヒルムシロ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。アジア東部。

【県内の状況】印旛沼、手賀沼、佐倉市、柏市、市原市での記録がある。

【保護対策】2008年に印旛沼底土の撒き出し実験で発芽したので、これを維持し将来印旛沼に復元することを期待したい。

【文献】千植誌 1958：432
／千植誌 2003：664,660

【写真】1964.9.6 印旛沼
標本：CBM BS-12729

(谷城勝弘)



EW ヒロハノエビモ ヒルムシロ科

2009	EW
2017	A
2023	EW

Potamogeton perfoliatus L.

【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は単葉で互生〜対生。風媒で水散布。無柄で、縁は波打ち、基部が茎を半周以上抱く。湖沼性（稀に河川）の沈水性多年生草本。ヒルムシロ群綱。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。南米大陸を除き世界に広く分布。

【県内の状況】手賀沼、印旛沼、霞ヶ浦域で生育が確認されてきたが、現在は見られない。旧生育地近くに新たに造られた造成池などにはほかのヒルムシロ科の発生が時折見られるが、本種は出現しない。水質の汚濁に極めて敏感な種と思われる。

【保護対策】現在は、自然生育地を見いだすことはできないが、2008年に印旛沼底土の撒きだし実験で発芽したので、これを維持し将来印旛沼に復元することを期待したい。

【文献】千植誌 1958：432／大滝末男 1975 水生植物の分布と生態、新千植誌：216-232／角野康郎 1994 日本水草図鑑：37。／千植誌 2003：663,669

【写真】1933.8.25 香取市 標本：CBM BS-552

(谷城勝弘)



EW イトクズモ イトクズモ科

2009	EW
2017	A
2023	EW

Zannichellia palustris L. var. *indica* (Cham.) Graebn.

【種の特性】沈水性の繊細な多年生草本。葉は単葉で輪生、無柄、線形で長さ2.5～7cm、先端は鋭頭、鋸歯はない。水媒で水散布。海岸性（塩湿地やため池等）。イトクズモ群目。[HH]

【分布】北海道・本州・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド。

【県内の状況】九十九里浜平野域と南房総市での生育記録があるが、近年における河口部の河川改修、護岸工事を始めとしてかつて多数見られた海岸域の湿地帯や沼が埋め立てられ、本種の生育地の多くが失われることになった。

【保護対策】現在は、生育地を見いだすことはできないが、2008年に印旛沼底土の撒き出し実験で発芽したので、これを維持し将来印旛沼に復元することを期待したい。

【文献】角野康郎 1994 日本水草図鑑：49. / 千植誌 2003：670,665

【写真】2004 宮城県 大場達之
(大場達之 / 天野誠)



EW ヒシモドキ オオバコ科

2009	EW
2017	EW
2023	EW

Trapella sinensis Oliv.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で水散布。池底に根を下ろし、水中葉を多く対生し、水面にヒシに似た浮葉を広げ淡紅色の花をつける。果実には長い針状の付属物が4本ある。条件によっては花が咲かず閉鎖果のみをつけることが知られている。池・沼などの静水域に見られた。ヒルムシロ群団。[HH]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、プリモリア。

【県内の状況】主として利根川水系から多くの記録があり、特に印旛沼では普通であったという。また山武市からも記録があったが、近年は全く報告がない。水域環境の

悪化によって絶滅した可能性が高い。埋土種子からの復活実験ではヒシモドキの発芽は確認されていない。

【保護対策】故笠井貞夫が生前に印旛沼から採集して栽培されていた個体が生きているので、これを維持し、印旛沼の水質回復が果たされたときに復元を図る。

【文献】千植誌 2003：542, 531

【写真】2002 兵庫県産 東京都栽培
大場達之

(大場達之 / 天野誠)



A ゴヨウマツ マツ科

2009	A
2017	A
2023	A

Pinus parviflora Siebold & Zucc.

【種の特性】常緑高木。葉は針葉で輪生。風媒で風散布。変種のキタゴヨウは種子の翼が種子と同長以上で本州中部以北の日本海側と北海道に分布する。キタゴヨウと区別するためにヒメコマツと呼ばれることもある。[MM]

【分布】北海道・本州・四国・九州（太平洋側）。

【県内の状況】かつては房総丘陵に広く分布していたと思われるが、近年急激に減少し、2001年には高岩山、元清澄山、清澄山周辺に75本が確認されるのみとなった。しかし、残っている本数の割には遺伝的多様性は維持されている。

【保護対策】房総丘陵のゴヨウマツは自然状態で集団を維持することが困難なほど衰退している。個体の多くが孤立しているため、自殖率が高く発芽率が低い。

こうした問題を解決するため、人工交配が試みられている。また、現存個体の遺伝子を保存するため接ぎ木も試みられている。今後、個体群の衰退の程度によっては、人為的な補強ないしは消滅した生育地への再導入を検討する必要もあろう。

【文献】石原猛・佐倉詔夫・蒲谷肇 1983 清澄山におけるヒメコマツ・清澄10:1-10 / 房総のヒメコマツ研究グループ 2001 房総半島におけるヒメコマツ個体群の緊急調査・44 pp. / 千植誌 2003: 78, 81

【写真】1998 君津市 大場達之
(齊木健一)



A ジュンサイ スイレン科

2009	A
2017	A
2023	A

Brasenia schreberi J.F.Gmel.

【種の特性】浮葉性の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。群生することが多い。池・沼に生える。若い芽や葉は寒天質に包まれており、これを食用にする。ジュンサイーヒツジグサ群集。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。アフリカを除く世界各地の熱帯から温帯に広く分布。

【県内の状況】市川市のじゅんさい沼は古くから知られた産地で、そのほか茂原市～長生村、千葉市、山武市、長柄町などから記録があるが、その多くでは絶滅している。2006年9月3日に横芝光町で採集されている（CBM BS-236501）。

市川市のじゅんさい沼は公園化され、ジュンサイが植えられているが、これは一度絶滅したが、東北産のものを導入して復活させたものである。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。特に水質の維持が大切である。

【文献】新千植誌 1975: 425 / 天野誠 2007 千葉県立中央博自然報告 9(2): 36

【写真】1999.07.01. 長柄町 大場達之
(大場達之／天野誠)



A オニバス スイレン科

2009	A
2017	B
2023	A

Euryale ferox Salisb.

【種の特性】 巨大な浮葉性の一年生草本。葉は単葉で互生、著しい刺がある。虫媒で水散布。ヒルムシロ群目。[HH]

【分布】 本州（東南北部以南）・九州。台湾、中国、インド。

【県内の状況】 1980年に一宮町で、1885年に市川市で採られた標本がある。また印旛沼、手賀沼とその周辺には多くの産地が知られているほか、九十九里浜平野でも一宮町のほかに九十九里町などからの記録がある。いずれの地域でも埋め立て、水質の悪化によってほとんど絶滅している。しかし埋土種子から回復する例があり、神崎町などでは保護された生育地が残っている。

【保護対策】 旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、回復を試みるのが望ましい。

【文献】 斉藤吉永 1967 オニバス消滅の原因. 植物採集ニュース 31: 51-52 / 斉藤吉永 1973 印旛沼周辺のオニバスについて. 千葉生物誌 22(1・2): 35-36 / 新千植誌 1975: 425 / 千植誌 2003: 202,209

【写真】 2002.9.20 神崎町 腰野文男

(大場達之/天野誠)



A ナガバコウホネ スイレン科

2009	A
2017	A
2023	A

Nuphar japonicum DC. var. *stenophyllum* Miki

【種の特性】 コウホネに似ているが全体に小柄で、主に流水域に生え、流水の強い環境では抽水葉を出さないことが多い。葉身は長楕円形で長さ幅の2～3倍。花柄は細く、花は多く水面に咲く。三木茂（1937）がコウホネの変種として記録した。角野康郎はシモツケコウホネを独立種として記載したが、これはナガバコウホネと同じものと考えられる。

【分布】 本州。神奈川県でも海老名市でナガバコウホネが発見されている。関東地方から東北にかけて、このような形の流水地型のコウホネが分布している。

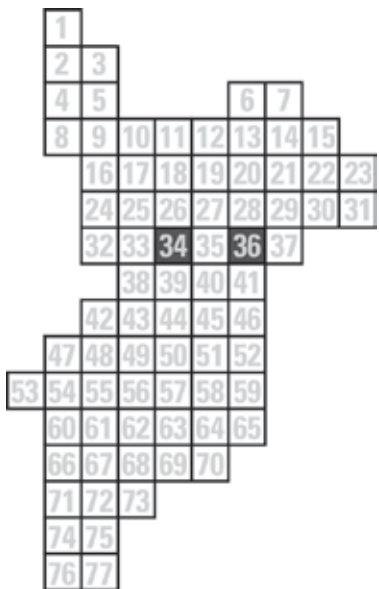
【県内の状況】 都川で最初発見されたが、上流の河川工事のため埋没してしまったので、千葉市の職員が若干の株を掘り出して水槽で栽培していたものが最初の発見で、その後、小野川に多数生育しているのが発見された。しかし小野川では観光船の定期航行のために水位を上げたために危機に瀕している。

【保護対策】 特に小野川については、透明度が低いので水位を下げ、ナガバコウホネの光合成を助けることが重要であろう。

【文献】 三木茂 1937 山城水草誌 82-84 / 角野康郎 2005 コウホネ属新変種シモツケコウホネの発見：産地の現状と保全の重要性 / Kadono, Y. 2006 Acta Phytotax. Geobot. (2006) 57, 2, 113-122 / 林浩二 千植誌 2003: 202,209

【写真】 2002.7 千葉市大場達之

(大場達之/天野誠)



A ヒツジグサ スイレン科

2009	A
2017	EW
2023	A

Nymphaea tetragona Georgi

【種の特性】浮葉性の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。池・沼に生える。ヒツジグサ群団。[HH]

【分布】本州・四国・九州。北海道にはエゾノヒツジグサが分布。

【県内の状況】利根川水系と九十九里浜平野に多くの産地が知られていたが、いずれも水質の悪化、埋め立てなどで消滅しており、山間の池に生えるものだけが残っている。栽培のスイレン属のほかの種類が自生状態で見られるが、真のヒツジグサは稀である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。特に水量の維持が大切である。

【文献】新千植誌 1975：425 / 千植誌 2003：202,209

【写真】長野県 大場達之

(大場達之／天野誠)



A ゼニバサイシン ウマノスズクサ科

2009	A
2017	A
2023	A

Asarum. takaoi F.Maek. var. *hisauchii* (F.Maek.) F.Maek.

【種の特性】常緑多年生草本。葉は単葉で互生。花は2～3月に咲く。萼筒内面には20本前後の隆起線がある。虫媒で虫散布。ヒメカンアオイに似るが葉の先端が切形であることが違う、この類の分類は再検討が必要である。クヌギ～コナラ二次林あるいはスギ植林などの林床に生える。[G]

【分布】本州中部（千葉、長野、岐阜、愛知、三重）。

【県内の状況】1986年に銚子市で発見された。現在銚子市の数ヶ所で確認されている。いずれも極めて限られた範囲にのみ見られ、生育地の改変で個体数が減少している他、好事家の採集により開花個体が極端に減少している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしない。

【文献】鶴岡繁・福田泰二 1988 銚子に新しく発見された2種の植物について。千葉生物誌 38(1)：1-4 / 大場秀章・福田泰二・鶴岡繁 1989 千葉県で見出されたゼニバサイシン、特にその意外な分布と分類植物研究雑誌 64(8)：225-231 / 千植誌 2003：214, 211

【写真】1998. 銚子市 腰野文男

(大場達之／天野誠)



A ダンコウバイ クスノキ科

2009	
2017	A
2023	A

Lindera obtusiloba Blume

【種の特性】落葉性低木。雌雄異株。高さ2～6m。葉は互生、多くは先で浅く3裂する。葉が出る前に花が咲く。頭状花序で、花は黄色い。果実は赤熟する。虫媒で、鳥散布。花期は、3月から4月。山地の落葉樹林の林内や林縁に生育する。[M]

【分布】本州・四国・九州

【県内の状況】君津市で、2004年11月18日に採集された標本(CBM BS-269726)がある。

雌雄異株で、個体数が少ないので、存続が危ぶまれる。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】改訂新版日本の野生植物(2016)p.84

【写真】2004.11.18 君津市 CBM BS-269726

(天野誠)



A マイヅルテンナンショウ サトイモ科

2009	A
2017	A
2023	A

Arisaema heterophyllum Blume

【種の特性】多年生草本。葉は鳥足状複葉で互生、中央の小葉がほかの小葉よりも著しく小さい。虫媒で鳥散布。高さ80cm以上になる。偽茎は高く伸びる。平地の湿った林、あるいは河川の氾濫源の草原に生える。[G] 全体緑色。

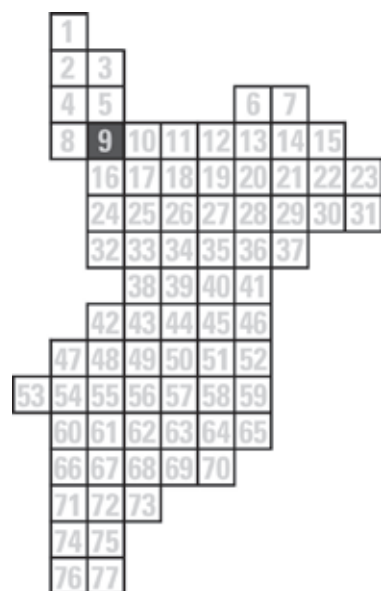
【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】関東地方では利根川と荒川の氾濫原に生える。1991年に柏市で発見された。

【保護対策】湧水地を取り囲む林全体を保全することが望ましい。

【文献】齊藤吉永 1994 調査会目録
／千植誌 2003 : 798,811

【写真】2004. 茨城県 大場達之
(大場達之／天野誠)



A ムサシアブミ サトイモ科

2009	
2017	A
2023	A

Arisaema ringens (Thunb.) Schott

【種の特性】 中型の多年性草本。高さは10cmから30cmになる。葉は通常2枚、葉身は鳥足状に分裂し、小葉は3枚。雌雄異株。仏炎苞の形は、馬具のあぶみ状になる。虫媒で、鳥散布。花期は、3月から5月。やや湿った林床に生育する。[G]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮（南部）、台湾、中国。

【県内の状況】 佐倉市で2015年6月29日に採集された標本（CBM BS-366503）と芝山町で1995年4月20日に採集された標本（CBM BS-120159）がある。中央博物館の生態園では、逸出と思われる個体が発見されている。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 811

【写真】 2019.6.18 芝山町 谷城勝弘

(天野誠)



A スブタ トチカガミ科

2009	B
2017	A
2023	A

Blyxa echinosperma (C.B.Clarke) Hook.f.

【種の特性】 沈水性の一年生草本。ため池や水路等の底土が泥質の止水域に生える。葉は単葉ですべて根生。風媒で水散布。沈水葉は線形で、長10～20cm、幅3～9mm。花は9～10月に咲く。果実の背稜には突起がない。[HH] ヒルムシロ群綱。

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、東南アジア、オーストラリア。

【県内の状況】 千葉市、野田市、八千代市の報告があるが、標本で確認できるのは市原市（1994.9.5 CBM BS-123631）のみである。従来の記録にはヤナギスブタを誤認したものが含まれている可能性がある。

【保護対策】 ため池や水路の汚濁をなくし、生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958 432 / 新千植誌 1975 : 476 / 千植誌 2003 : 655,644

【写真】 1994.9.5 市原市 標本 : CBM BS-123631

(大場達之 / 天野誠)



A オオウミヒルモ トチカガミ科

2009	A
2017	A
2023	A

Halophila major (Zoll.) Miq.

【種の特性】 小形の海底沈水性多年草。雌雄異株。根茎は白色で細く海底の砂泥土中を横走り、節間は2.5～4cm。節には透明な鞘葉と対生状に2枚の葉をつける。葉は楕円形で1.5～3cmの柄がある。葉脈の下部と葉柄上部はしばしば赤く染まる。側脈は18～22対で、先端が2列するものが多く混じる。葉縁の透明細胞は1列。千葉県産のものでは開花を観察していない。別名ウミコバン。牧野富太郎によって *Halophila euphlebia* Makino (1912) と命名されたが、Kuo, J. et al. (2006) によってインドネシア産の *H. major* (Zollinger) Miq. (1855) と同一種とされた。ほかのウミヒルモ類よりも潮通しのよい外海に面した砂質地に多く見られ潮下帯上部に生える。これまで館山市のウミヒルモ類はウミヒルモ *H. ovalis* (R.Br.) Hook.f. とされていたが、ウミヒルモは琉球以南にのみ分布し、館山市のものはオオウミヒルモとつぎに述べるヤマトウミヒルモの2種であることが明らかになった。

【分布】 本州（館山市を北限として、和歌山）・四国・鹿児島・琉球（奄美大島）、太平洋南西部に広く分布。

【県内の状況】 館山市にのみ記録されている。

【保護対策】 築堤などを行わず、現在の海況の環境を維持する。

【文献】 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 15,64-65

【写真】 2004.5 館山市 大場達之
(大場達之・宮田昌彦)



A ヤマトウミヒルモ トチカガミ科

2009	A
2017	A
2023	A

Halophila nipponica J.Kuo

【種の特性】 オオウミヒルモにやや似るが植物体に赤く染まる部分が無く、葉は長楕円形で側脈は8～12対、側脈はほとんど2又しない。また葉縁の透明細胞は細長く3列にならぶ。雌雄異株。花は3枚で透明質、雄しべは黄色。水媒で水散布。(HH)。Kuo, J. (2006) によって新種として記載された。館山市の沖の島はヤマトウミヒルモの基準産地である。オオウミヒルモと異なり内湾的環境の泥質地に生え、潮下帯の最上部に多い。本種は九州から本州北端の陸奥湾にいたる間にも見られるが、これらは雄花の花被が紫色を帯び、葯が紅紫色を呈する。これを別亜種 subsp. *notoensis* Ohba et Miyata という。

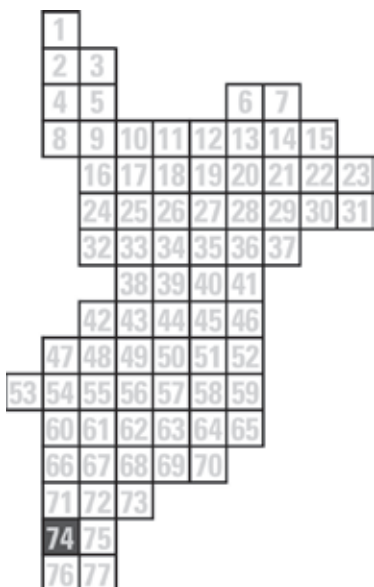
【分布】 本州（館山市以西）・四国・九州。

【県内の状況】 館山市、館山港のほか東京湾の数ヶ所に分布し、三浦半島にも見られる。

【保護対策】 基準産地であることも考慮し沖ノ島の生育地は手厚く保護すべきであろう。

【文献】 Kuo, J. et al. 2006 Acta Phytotax. Geobot. 57(2):141-144
／ Uchimura & M.E. Faye 2006 Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo. Ser. B. 32(3): 131
／ 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 15,66-67

【写真】 2004 館山市 大場達之
(大場達之・宮田昌彦)



A ヒロハトリゲモ トチカガミ科

Najas chinensis N.Z.Wang

2009	
2017	
2023	A

【種の特性】小型の一年性草本。茎はよく分枝する。葉身は線形で、小さな鋸歯がある。雌雄同株。果実の表面の模様正方形から六角形。水媒で、重力散布。花期は、7月から9月。溜め池や水田に生育する。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。東アジア。

【県内の状況】君津市で、1992年7月16日（CBM BS-202229）に採集された標本のみがある。野田市に記録がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：477 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑：17 / 千植誌 2003

643,657

【写真】（上）2018.7.10 （下）2020.8.8

野田市 岩槻秀明

（岩槻秀明）



最重要保護
A

A コバノヒルムシロ ヒルムシロ科

Potamogeton cristatus Regel & Maack

2009	
2017	A
2023	A

【種の特性】小型で浮葉性の多年生草本。葉は互生～対生、沈水葉は線形で長さ3～5cm、幅0.3～1.0mm。風媒で水散布。ホソバミズヒキモに似るが果実の嘴（花柱）が長く、また背稜に著しい突起がある。湖沼性。ヒルムシロ群団。[HH]

【分布】本州・九州。朝鮮、台湾、中国、ウスリー。

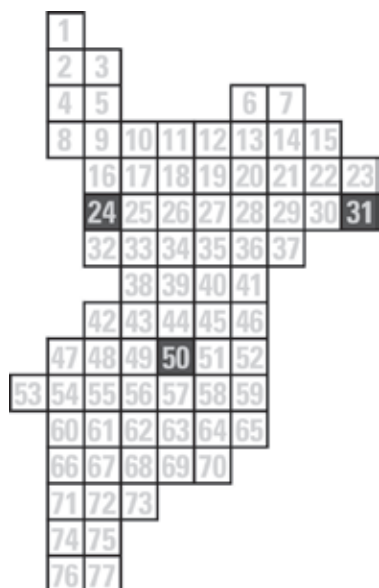
【県内の状況】鉾田市、野田市、勝浦市、大多喜町などからの分布が知られる。近似的の種類と混同されていることも考えられる。証拠標本の確認できない記録もあるので、今後検討を要する種類である。現在生育は確認されていない。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるので、生育可能な環境を保全し、回復を試みることを望ましい。

【文献】新千植誌 1975：478 / 伊藤至 1988 水草三題千生誌 37(1・2)：11-14. / 千植誌 2003 664,660

【写真】1940.6.6 大多喜町 標本：CBM BS-3086

（谷城勝弘）



A ミズヒキモ ヒルムシロ科

2009	B
2017	A
2023	A

Potamogeton octandrus Poir. var. *miduhikimo* (Makino) H.Hara

【種の特性】沈水性の多年生草本。ため池や水路等に生える。葉は単葉で互生～対生。沈水葉は線形で、長さ3～5 cm、幅0.3～1.0 mm。基本変種に似るが、果実の背稜は全縁。風媒で、水散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、満州。

【県内の状況】館山市（1935.6.9 CBM BS-183383）、松戸市（2002.8.14 CBM BS-193364）の標本が千葉県立中央博物館にある。栗山川流域と一ノ宮川流域にも記録されるが、近年は確認されていない。

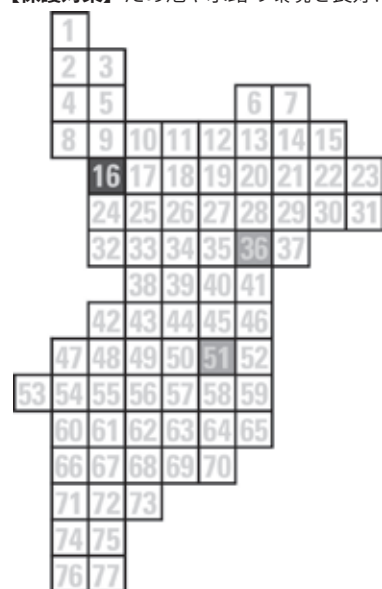
【保護対策】ため池や水路の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：660

【写真】2004 宮城県

大場達之

（谷城勝弘）



A シバナ シバナ科

2009	A
2017	A
2023	A

Triglochin asiatica (Kitag.) Á.Löve & D.Löve

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。内湾の潮間帯上部に群生することが多い。塩湿地に生える。ナガミノオニシバ群目。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。北半球の温帯を中心に広く分布する。北海道のものは大形でオオシバナとして区分すべきだとの意見がある。

【県内の状況】かつては九十九里沿岸の河口域に多く見られ、匝瑳市、山武市、大網白里市、いすみ市、一宮町、長生村などからの記録がある。九十九里における最新の確かな記録は1968年6月3日の標本である（平塚市博物館標本、九十九里とあるだけで細かな地名は記されていない）。また千葉県立中央博物館には市原市で採集した標本がある（1956年8月5日）。東京湾岸では千葉市、市原市からの記録もある。

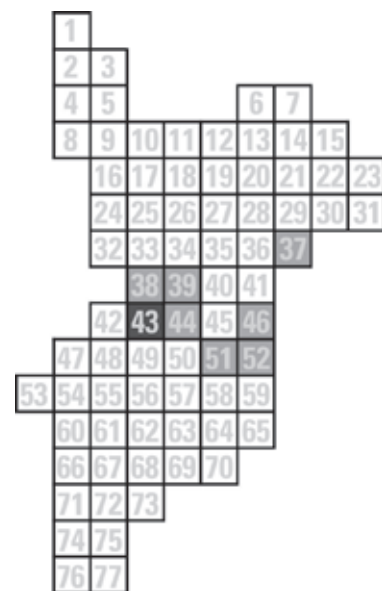
現在は埋め立てや河川改修などによって絶滅したと考えられていたが、2003年に市原市の埋め立て地付近に残る旧河川の河床から健全な状態の群落が発見された。

【保護対策】東京湾岸に唯一現存する生育地を厳重に保護することが望まれる。

【文献】新千植誌 1975：477 / 千植誌 2003：659,663

【写真】2004. 市原市 大場達之

（大場達之／天野誠）



A タチアマモ アマモ科

2009	A
2017	A
2023	A

Zostera caulescens Miki

【種の特性】多年生草本。根茎の節から多数の根を出す。葉は単葉で互生、先端縁辺部に鋸歯がない。水媒で水散布。雌雄同株。生活史と形態はアマモに似ている。葉を含めたシュートの長さは7mに達し、葉の幅は10～15mmで長さ16～90cm、葉脈は9～11本で中肋の左右に横脈の密集した部分がある。しばしば漂着した葉によってオオアマモと同定されることがあるが、横脈密集ゾーンに注目すれば両種は見誤ることはない。開花期は4-8月。肉穂花序に葯隔突起がない。生殖枝の先端に栄養葉をつけることでアマモと区別される。アマモと同所的に生育するがアマモより深いところに生える。アマモ群目。海底が砂地の潮下帯に生える。[HH]

【分布】本州（中北部沿岸）及び・朝鮮半島南部。正基準標本は京都大学（KYO）に保管され、基準産地は「KOREA、Moppo」、1932年に採集。

【県内の状況】富津市、館山湾の潮下帯に生育する。

【保護対策】生育海域における海底の浚渫など環境の攪乱を避けることが望ましい。

【文献】Miki, S. (1932) Bot. Mag. Tokyo 46 : 774-788.
／ Miki, S. (1933) Bot. Mag. Tokyo 47 : 842-862. ／
Miki, S. (1934b) Bot. Mag. Tokyo 48 : 171-178 ／千植
誌 2003 : 657,662 ／大場達之・宮田昌彦 2007 日本
海草図譜 9-10,40-41

【写真】2004 三浦半島 未開花株 大場達之
(宮田昌彦)



A ヒロハノアマナ ユリ科

2009	C
2017	A
2023	A

Amana latifolia (Makino) Honda

【種の特性】小型の夏緑性の多年性草本。肥沃な雑木林の下に生える。地下の球茎から2枚の根出葉を出す。葉の中脈沿いは白色。花は3～4月。花茎には3枚の苞葉があり、1個の白色の花を上向きに咲かせる。花は陽光受けて開く。虫媒で、虫散布。ブナ群綱。[G]

【分布】本州（関東～近畿）・四国

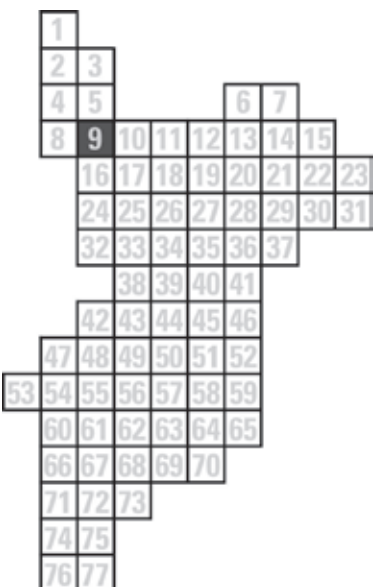
【県内の状況】柏市から報告があるのみである。絶滅した可能性が高い。

【保護対策】県北部の雑木林を精査し、残存個体群を発見する事が望まれる。

【文献】千生誌 1966: 16(1):12 ／千植誌 2003 : 688,682

【写真】1934.3.23 埼玉県 標本 : CBM BS-312745

(大場達之／天野誠)



A ヒメアマナ ユリ科

2009	A
2017	A
2023	A

Gagea japonica Pascher

【種の特性】多年生草本。葉は根生し1枚、幼弱の個体では葉は細く断面多角形の糸状、球茎の充実した個体では葉は平坦。花は4月に咲き、花茎上部に苞葉が数個つき数花をつけ、黄色で、陽を受けて上向きに開く。虫媒で重力散布。地下に黒褐色の球根がある。花は春早くに咲く。キバナノアマナに似ているがはるかに稀。河川の氾濫原の湿った草原、あるいは湿った夏緑林に生える。[G]

【分布】北海道・本州（これまでに知られている産地は東京都志村、埼玉県戸田、筑波山とその周辺、軽井沢、静岡県富士宮市、長野県富士見町、高野山などである）。

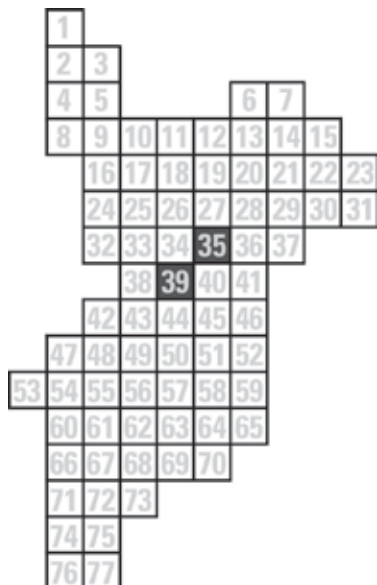
【県内の状況】市原市で1970年代に発見された。この産地は1998年春の調査において、

ヒメアマナは健在であったがアズマネザサの繁茂で活力が低下し、開花しない状態で、個体数も極めて少ない状態であった。近隣に開発の計画があり、絶滅寸前である。

【保護対策】谷沿いの放置された二次林に生えているので、生育地周辺のアズマネザサなどを刈り取り、林床を明るく保つことが望ましい。

【文献】原寛・佐藤邦雄・黒澤幸子 1974 軽井沢の植物。写真111, 91/千植誌2003: 687, 680

【写真】1982. 市原市 平田和弘
(大場達之/天野誠)



A ヤエノアマナ ユリ科

2009	
2017	A
2023	A

Amana edulis (Miq.) Honda form. *duplexa* Yashiro, Ichihara & Iwase

【種の特性】アマナ *Amana edulis* (Miq.) Honda に似るが、雄蕊が弁化して10～20枚の花弁をもつ。花被片の向軸側の先には薬をつけるものが多い。[G]

【分布】本州（千葉県）。

【県内の状況】横芝光町の栗山川河川敷で2009年3月29日に発見された。その時に採集された個体が基準標本となった(Yashiro et al. 2010)。当初は100個体前後が確認されたが、栗山川の自然調査会会員による刈り払い、除草などの管理作業により、現在は1000個体を超える個体数が確認される。

【保護対策】生育地を良好な環境に維持することが望ましい。

【文献】Yashiro K., Ichihara Y. & Iwase T. 2010 A New Double-Flowered Form of *Amana edulis* (Miq.) Honda (Liliaceae) from Japan. J. Jap. Bot. 85(5): 333-335

【写真】2011.4.10 横芝光町
谷城勝弘
(谷城勝弘)



A オオキツネノカミソリ ヒガンバナ科

2009	
2017	A
2023	A

Lyocoris sanguinea Maxim. var. *kiushiana* Makino

【種の特性】 中型の多年生草本。高さ 50～70cm。鱗茎から花茎を出し、散形花序を付ける。葉は広線形、春に出て、花期の前に枯れる。花はキツネノカミソリより大きく、9～12cm、雄蕊は花被片より少し長い。花期は、9月。湿った林床に生育する。[G]

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 袖ヶ浦市で 1995 年 9 月 23 日に採集された標本（CBM BS-133440）と木更津市で 2019 年 7 月 24 日に採集された標本（CBM BS-415462）がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 674 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016 247

【写真】 2019.7.24 木更津市 標本: CBM BS-415462

(天野誠)



A ホソバキジカクシ キジカクシ科

2009	
2017	A
2023	A

Asparagus schoberioides Kunth var. *subsetaceus* Franch.

【種の特性】 中型の多年生草本。高さ 50～100cm。茎は上方で分枝する。葉は、鱗片状に退化し、糸状の葉状枝が 3～7 束生する。雌雄異株。花柄は 1～2mm、花は長さ 2～3mm。虫媒で、鳥散布。花期は、5月～6月。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国（北部）、ロシア（シベリア以東）。

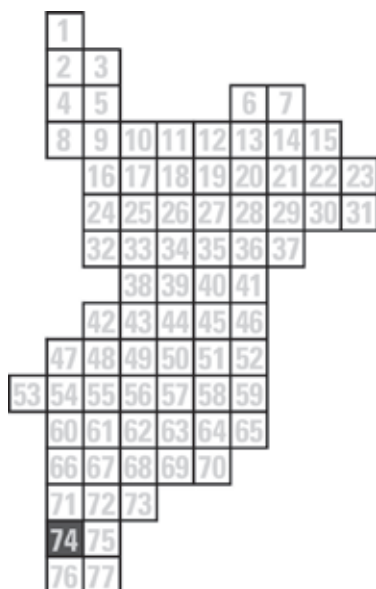
【県内の状況】 館山市で、2003 年 10 月 25 日に採集された標本（CBM BS-124140）がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 674 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016 247

【写真】 1997.10.1 館山市 標本: CBM BS-129501

(天野誠)



A イズイワギボウシ キジカクシ科

2009

2017

2023

B

A

Hosta longipes (Franch. & Sav.) Matsum. var. *latifolia* F.Maek.

【種の特性】 中形の多年生草本。葉は単葉で互生し根生する。花は8～9月。高さ20～40cmの花茎に総状につき淡紫色。虫媒で風散布。[H]
【分布】 北海道・本州・九州。
【県内の状況】 乾いた岩場に生え、県内では富津市に見られる。
【保護対策】 鑑賞目的での採集をしない。
【文献】 改訂新版日本の野生植物 1 2016 251
【写真】 2016.9.2 富津市 木村陽子
(大場達之／天野 誠 追補)



A ユウシュンラン ラン科

2009

2017

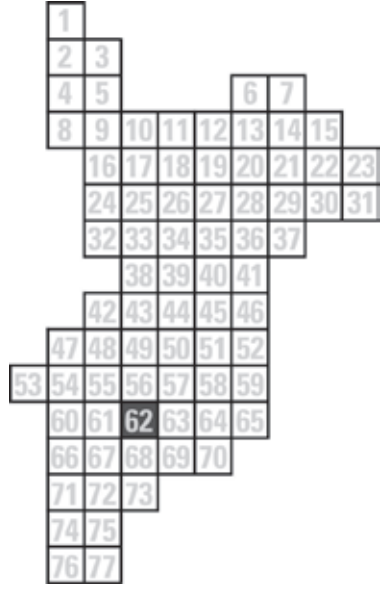
2023

A

A

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. *subaphylla* Ohwi

【種の特性】 小型の多年生草本。葉は楕円形で、1枚か2枚、退化気味で、黄緑色かほぼ白い。花は白く、長さ7～9mm。花期は、5月。虫媒で、風散布。常緑樹林の林床に生育する。[G]
【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮。
【県内の状況】 鴨川市で2012年5月4日に採集された標本（CBM BS-325392）がある。
【保護対策】 生育環境の自然林を良好な状態に保護するとともに、観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。



【文献】 千植誌資料 2013 278 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016 189
【写真】 2012.5.4 鴨川市 標本: CBM BS-325392
(天野誠)



A トケンラン ラン科

Cremastra unguiculata (Finet) Finet

2009	A
2017	A
2023	A

【種の特性】 中型の多年生草本。花茎は1本で高さ30～40cm，根生葉は長蛇円形で縦筋が目立ち，一株に2枚出て地表に広がる。花は5～6月に咲き，側弁は黄褐色で紫色の斑点がある，唇弁は白色で紫色の斑点がある。虫媒で風散布。夏緑林の林床に生える。[H]

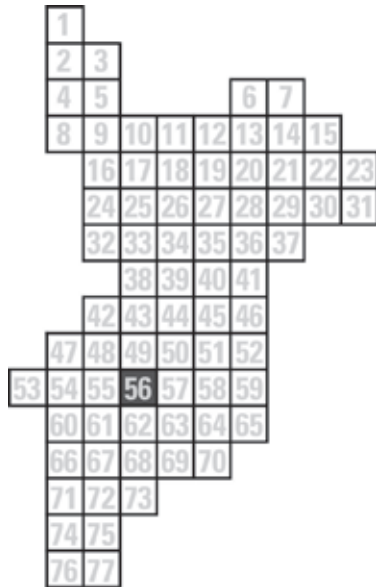
【分布】 北海道・本州・四国。朝鮮（済州島）。

【県内の状況】 2003年に木更津市の夏緑樹と照葉樹の混じる二次林ではじめて発見された。個体数は極めて少ない。

【保護対策】 観賞用の採取を行わない。自生地を保全する。

【文献】 保坂誠治・藤平量郎・大場達之・木村陽子 2008 トケンランが千葉県で発見された。千植資料 24：225-226

【写真】 2008. 木更津市 大場達之
(大場達之／天野誠)



A コアツモリソウ ラン科

Cypripedium debile Reichb. f.

2009	A
2017	A
2023	A

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で対生、光沢のある葉を茎の先に2枚対生につける。虫媒で風散布。花は5～6月に咲き、深くうなだれて葉の下に隠れる。主としてモミ林の粗腐植層の厚い林床に生える。[G]

【分布】 北海道南部・本州・四国・九州。中国。

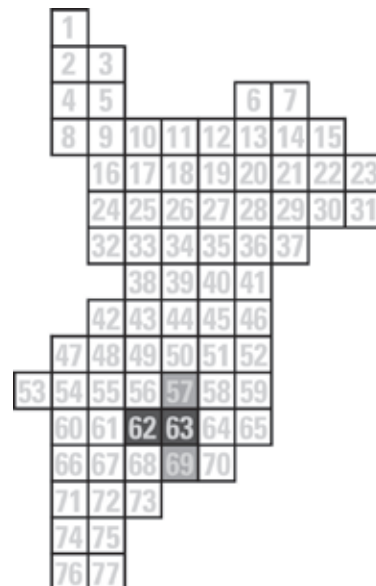
【県内の状況】 清澄山、三石山などに古くから知られているが、もともと個体数が少なく、選択的採取圧もあって少なくなっている。

【保護対策】 生育環境の自然林を良好な状態に保護するとともに、観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 倉田悟 1951 千葉県清澄山のラン科植物。演習林8：74／正宗徹敬・里見信生 1974 北陸の植物 21(4)：63／橋本保・神田淳

1981 原色野生ラン：15（千葉県での写真がある）。／千植誌 2003 910,901

【写真】 1989.4.30 養老溪谷 福田洋
(大場達之／天野誠)



A セッコク ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

Dendrobium moniliforme (L.) Sw.

【種の特性】樹木着生性の常緑多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。多肉な茎を叢生し、6月頃香りのよい白～淡紅色の花を咲かせる。巨樹や岩に着生する。[E]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮南部、中国。

【県内の状況】鴨川市の古木に着生するものは昔から有名であるが、境内が明るくなり乾燥化しているので数は少なくなっている。そのほか高岩山でも記録されているが少ない。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】倉田悟 1951 千葉県清澄山のラン科植物。演習林 8:74 / 能勢保 1951 千葉県のラン科植物。千植誌基礎資料 1(1):44-50 / 千植誌 2003 922,910

【写真】宮崎県 大場達之
(大場達之/天野誠)



A ハチジョウシュスラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

Goodyera hachijoensis Yatabe

【種の特性】常緑多年生草本。茎は地表を這い赤褐色。葉は常緑で互生し、中肋にそって白く刷毛で掃いたような白斑がある。花は9月に咲き、高さ10～15cmほどの花茎を出し、長さ4mmほどの淡褐色の花を密につけ、シナモン様の香りがある。葉に白斑のないものをオオシマシュスランと呼び、ハチジョウシュスランと混生し、千葉県ではこちらの方が多い。

[H]

【分布】本州（関東南部・伊豆諸島）・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】オオシマシュスランは1998年に御宿町ではじめて記録され、その後2006年に館山市のいくつかの場所でハチジョウシュスランとともに見つかった。気候温暖化による分布の拡大と考えられる。館山市の産地からはハチジョウシュスラン、オオシマシュスランが大量に生育する伊豆大島が指呼の間に見える。

【保護対策】鑑賞目的などでの採取を行わない。

【文献】千植誌 2003:918,907

【写真】2008. 館山市 大場達之
(大場達之/天野誠)



A カゴメラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

Goodyera hachijoensis Yatabe var. *matsumurana* (Schltr.) Ohwi

【種の特性】常緑多年草。ハチジョウウシスランに極めて近縁の変種で、葉には全体に網目状の細い白斑がある。(H)。

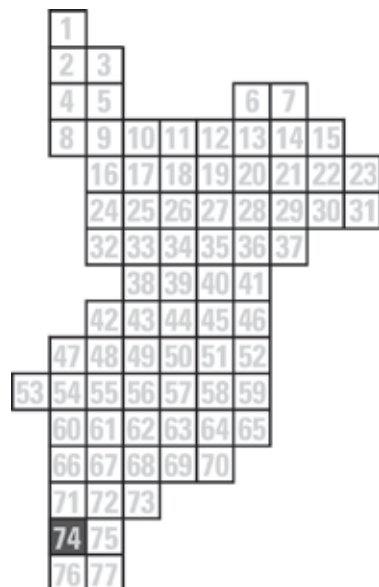
【分布】本州（関東南部・伊豆諸島）・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】2007年に館山市で発見された。ハチジョウウシスラン、オオシマシスランと混生するが個体数は少ない。

【保護対策】鑑賞目的などでの採取を行わない。

【文献】改訂新版日本の野生植物 1 2016：204

【写真】2007 館山市 大場達之
(大場達之／天野誠)



A ダイサギソウ ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

Habenaria dentata (Sw.) Schltr.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。高さ 60cm ほどになる。花は 8～9 月に咲き白色。湿った草地や土手に生える。[G]

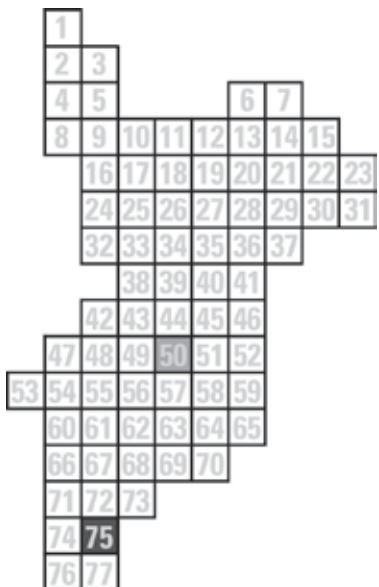
【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、熱帯アジア。

【県内の状況】館山市、市原市（1956）のほか南房総市などの報告があるが詳細な産地は明らかでない。美しい草なので標本は多く残されているが、実際の産地は限られており、同一地点で複数回採集されていることが多い。現在確かな産地は極めて少ない。全体が大形ではなはだ目立った白い花を群がりつけるので観賞用に採取される危険が大きい。

【保護対策】二次的な草地に生えるので、草地の刈り取りを従前通り行うことが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】浅野貞夫 1950 千葉県にダイサギソウ自生す。採集と飼育 12(6)：188-189／角田実 1956 千葉生物誌 9(4)：94-96。／千植誌 2003：911,901

【写真】1985 高知県 大場達之
(大場達之／天野誠)



A ムカゴトンボ ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

Habenaria flagellifera Makino

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。群れて生えることは少ない。花は緑色で小さく夏に咲く。葉はややオオバノトンボソウに似る。湿った粘土質の崖や湿地などに生える。[G]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。

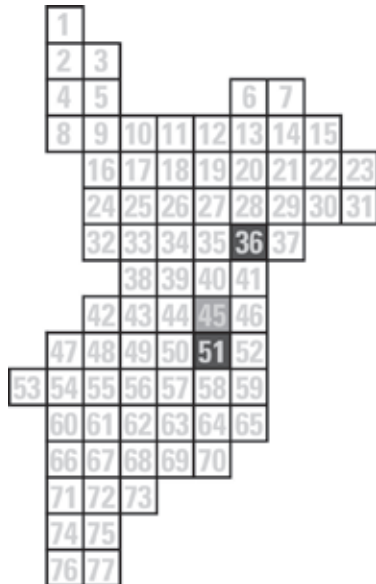
【県内の状況】茂原市～長生村にかけての湿地と成東・東金食虫植物群落地から記録されている。最も新しい記録は2001年である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。既知の産地と同質に見える環境はあちこちに見られるが実際に生育する場所は極めて限られている。微妙な環境の質を要求する種と考えられる。

【文献】千葉県 1978 第2回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書／千植誌 2003：912,902.

／千植写真 2005：364

【写真】（左）1993.9.2. 山武市 能勢正代
／（右）鹿児島県 大場達之
（大場達之／天野誠）



A オオミズトンボ ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

Habenaria linearifolia Maxim.

【種の特性】中型の多年生草本。茎は断面が円形で高さ40～50cm、葉は単葉で互生。花は8月に咲き、白色で長い距がある。唇弁の側裂片は側方に開出し鋭い鋸歯がある。虫媒で風散布。湿原に生える。[HH]。別名サワトンボ。

【分布】北海道（西南部）・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】山武市から茂原市にかけての地域と、市原市が知られている。

【保護対策】観賞用の採取を行わない。自然的な湿地を保全する。

【文献】千植誌 2003：912.902

【写真】2008.9.3 山武市 能勢正代
（大場達之／天野誠）



A サギソウ ラン科

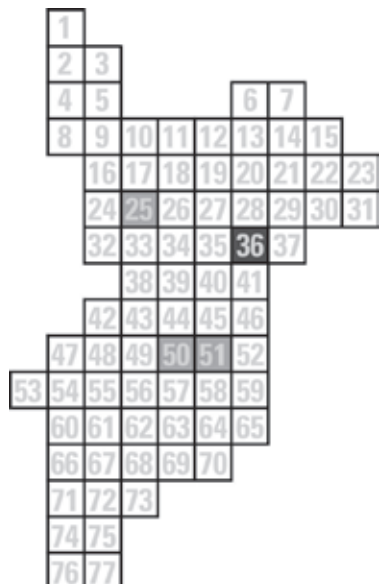
2009	A
2017	A
2023	A

Habenaria radiata (Thunb.) Spreng.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。花は7～8月で白色、唇弁の側裂片は糸状に深く裂ける。虫媒で風散布。地下に球状の塊茎をつくり、群生することが多い。ヨシ群綱。湿原に生える。[HH]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県北部には多くの産地が知られ、かつては茂原市～長生村周辺などでは普通に見られたが、開発による湿地の消滅と、観賞目的の選択的採取のためにほとんど見られなくなった。



【保護対策】山武市で行われているように湿地を保護するとともに、観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】能勢保 1951 千葉県産のラン科植物. 千植誌基礎資料 1(1): 44-50. / 千植誌 2003: 911,901

【写真】1990 山武市 谷城勝弘
(大場達之/天野誠)



A ミズトンボ ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

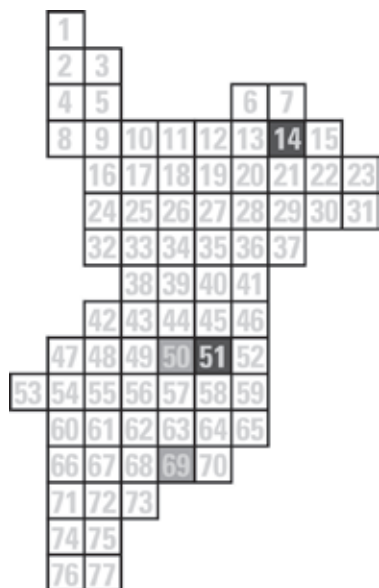
Habenaria sagittifera Reichb. f.

【種の特性】多年生草本。茎は3稜形で直立し高さ50～80cmになる。葉は単葉で互生。花は8月に咲き緑白色で、唇弁の側裂片は斜め上を向き、鋸歯は低い。虫媒で風散布。群がって生えることが多い。湿地に生える。ヨシ群綱。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】利根川沿いの香取市、成田市と九十九里低地、茂原市～長生村、それに市原市から記録されている。最も新しい記録は1972年である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。



【文献】能勢保 1951 千葉県産のラン科植物. 千植誌基礎資料 1(1): 44-50 / 千葉県企画部企画課 1972 千葉県自然環境保全調査報告書 / 千植誌 2003: 911,902

【写真】1947.8 愛知県 標本: CBM BS-101191

(大場達之/天野誠)



A ムカゴソウ ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

Herminium lanceum (Thunb.) Vuijk var. *longicrura* (C.Wright) H.Hara

【種の特性】 夏緑多年生草本。茎は 20 ～ 40cm。葉は単葉で細く 2 ～ 3 枚が互生。花は夏に咲き淡黄緑色で唇弁のみが細長く先端は 3 裂するが、中裂片はごく短い。虫媒で風散布。湿原と湿った土手の草地などに生える。[H ～ G]

【分布】 北海道・本州。朝鮮、中国、ウスリー、アムール。

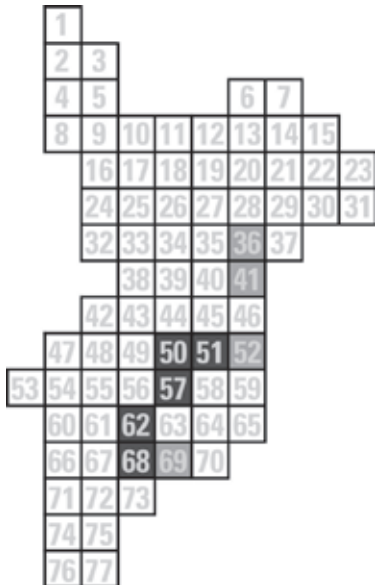
【県内の状況】 茂原市～長生村の湿地と、山武市から清澄山にかけての丘陵に分布するが、個体数は少ない。

【保護対策】 湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：913,903

【写真】 2000.7.5 市原市 平田和弘

(大場達之／天野誠)



A カゲロウラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

Hetaeria agyokuana (Hukuy.) Nackej.

【種の特性】 常緑多年草。茎は地表を這い先端は直立し、3 枚ほどの葉を集めつる。葉は濃緑色で縁が波打つ。9 月頃葉の集まりの中心から高さ 15 ～ 25cm の花茎を出す。側萼片は緑色でやや下方に開出する。上萼片は赤みを帯びた緑色、内花被片は淡黄色。照葉樹林のやや乾いた尾根筋などに生える。(H)

【分布】 本州（関東南部）・伊豆諸島・四国・九州。台湾。

【県内の状況】 2002 年に館山市の数ヶ所で発見された。近接する伊豆大島には、かなり大きな群落があるので、その方面から比較的近年に由来したと考えられる。オオシマシスランと混生して

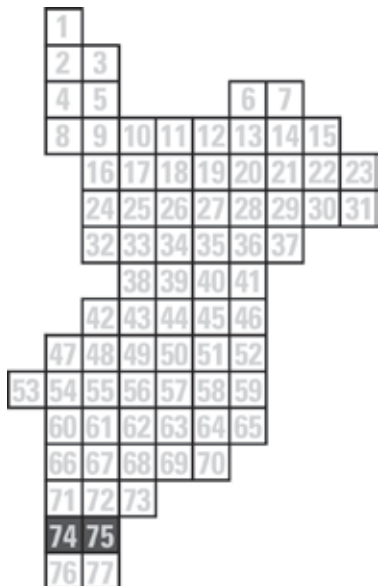
見られ、花の時期も同じである。

【保護対策】 鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】 迫田昌宏・玉井明子・中尾茂樹 2003 千植資料 (2003)19:146-147 / 千植誌 2003：906,918

【写真】 2008. 館山市 大場達之

(大場達之／天野誠)



A ヒメノヤガラ ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

Hetaeria sikokiana (Makino & F.Maek.) Tuyama

【種の特性】 小型で無葉菌根性の多年生草本。高さ 5 ～ 15cm で無葉。花は 7 ～ 8 月に咲き、筒状で平開しない。虫媒で風散布。全体に赤褐色を帯びる。尾根筋のモミ林あるいはスギ林の林床に生える。カクレミノースダジイ群目。[G]

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 清澄山周辺には古くから知られているが、近年鴨川市からも発見された。個体数は極めて少ない。1995 年に生育を確認している。

【保護対策】 生育地である森林の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 前川文夫 1981 原色日本のラン：248. / 千植誌 2003：918,906

【写真】 1996.7. 君津市 大場達之

(大場達之 / 天野誠)



最重要保護
A

A ギボウシラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

Liparis auriculata Blume ex Miq.

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。クモキリソウに似て葉が幅広く、基部が心形になる。夏緑林に生える。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。

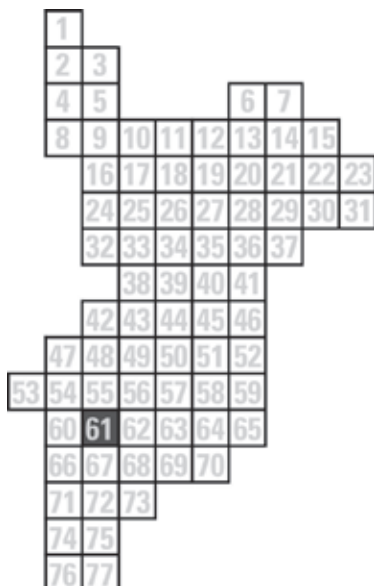
【県内の状況】 1977 年に高岩山の産地が報告されている。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 浅野貞夫 1977 ギボウシラン房総半島南部に自生する。植物採集ニュース 89：53-54. / 千植誌 2003：920,908

【写真】 八丈島 能勢保所蔵標本

(大場達之 / 天野誠)



A ジガバチソウ ラン科

2009	B
2017	A
2023	A

Liparis krameri Franch. & Sav.

【種の特性】 多年生草本。葉は2枚で葉の縁は細かく波曲する。花は6月頃に咲き緑がかった紫褐色。虫媒で、風散布。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 県内の主として太平洋側の各地から報告があるが、確実な産地は少ない。花期以外の観察記録はクモキリソウの誤認の可能性がある。

【保護対策】 鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】 千植誌 2003：920, 908

【写真】 1986.6.14 大網白里市 福田洋
(大場達之／天野誠)



A ヒメフタバラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

Listera japonica Blume

【種の特性】 小形の多年生草本。葉は単葉で茎の中間に2枚向かい合ってつく。花茎は細く、細毛がある。花は3～4月に咲き帯紫褐色。照葉樹林、モミ林あるいはスギ林などに生える。虫媒で風散布。

【分布】 本州・四国・九州・琉球。

【県内の状況】 清澄山、高宕山およびその周辺から報告されており、どこでも個体数は少ない。

【保護対策】 鑑賞目的などの採取をしない。

【文献】 千植誌 2003：914, 904
【写真】 1995.4.9 君津市 福田洋
(大場達之／天野誠)



A ニラバラン ラン科

2009	B
2017	A
2023	A

Microtis unifolia (G.Forst.) Rchb.f.

【種の特性】多年生草本。湿ったあぜ道や土手、海岸のクロマツ林の下などに生える。葉は単葉で根生、細く円柱状。虫媒で風散布。群生することが多い。地下に丸い球根をつくる。[G]

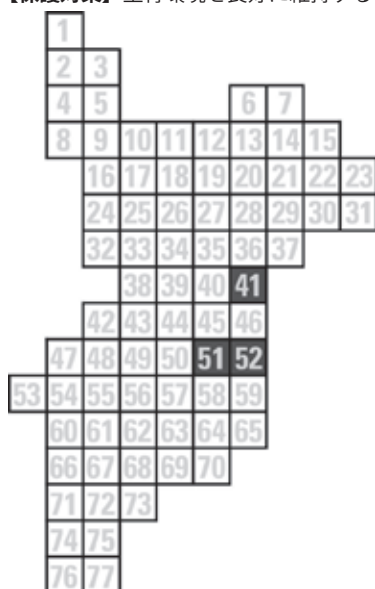
【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。南アジア、オーストラリア、ニュージーランド。

【県内の状況】九十九里浜平野で記録され、山武市、長生村、一宮町から報告があるが、近年は採集されていない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】能勢保 1951 千葉県のラン科植物. 千植誌基礎資料 1(1):44-50 / 正宗巖敬・里見信生 1965 北陸の植物 13(3): 65 / 千植誌 2003 : 915, 905

【写真】1995. 一宮町 大場達之
(大場達之／天野誠)



最重要保護
A

A フウラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	A

Neofinetia falcata (Thunb.) Hu

【種の特性】常緑多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。6月に白色で長い距をもった香り高い花をつける。照葉樹などの樹幹・樹枝に着生する。岩に着生することもある。[E]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。中国。

【県内の状況】かつては社寺や民家の樹木に着生するものが見られたが、大気汚染・着生する樹木の減少、環境の乾燥化、選択的採取によって著しく減少している。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】正宗巖敬・里見信生 1963 北陸の植物 12(2): 33. / 千植誌 2003 : 923, 910

【写真】2007.7.5 睦沢町
谷城勝弘
(大場達之／天野誠)



A ツクシサカネラン ラン科

2009	
2017	X
2023	A

Neottia kiushiana Hashim. & Hatus.

【種の特性】 菌類に寄生する多年生草本。照葉樹の腐植土に生える。茎は高さ 20cm ほど、地下の根茎から 1 ～数本の茎を出し基部に無葉緑の鱗片状の葉がある。花は 6 月に咲き、花被片は白色透明でのちに淡い褐色に変わる。[G]

【分布】 関東、本州中部（愛知県北部）、九州南部。韓国（済州島）。

【県内の状況】 1958 年に清澄山で採集され、サカネラン属の 1 種と同定されていたが詳しく研究されず、のちに鹿児島県鶴田町で採集されツクシサカネランとして記載された種と同一種であることが明らかにされた（遊川ら 2009）。2010 年代に大多喜町で、写真で記録されている。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。



【文献】 遊川知久 2014 ツクシサカネラン In 岩科司・海老原淳編 ウォッチング日本の固有植物 14-17

【写真】 1958.6.15 清澄山 清水大典採集国立科学博物館所蔵 標本 TNS 307293. 大場達之

(大場達之／天野誠 追補)



A ムカゴサイシン ラン科

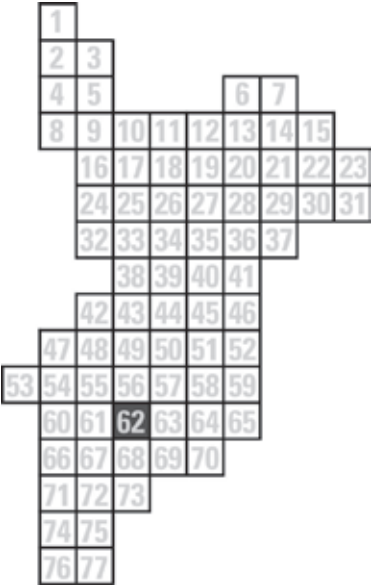
2009	A
2017	A
2023	A

Nervilia nipponica Makino

【種の特性】 多年生の小形草本。地下に塊茎があり、塊茎から直上する地下の茎の途中から横に細い地下茎を出し、その先端に新しい塊茎をつけ、数個体がやや集まって生える。葉は花の後に出て 5 角状円形で 1 枚。花は 5 月で、細い褐色の花茎の先に 1 花をつけ、やや下向きに半開状態で咲く。萼片は緑褐色、内花被片は白色で紅紫色の斑紋がある。虫媒。風散布。夏緑樹の二次林とヒノキ林の下で見つかった。(G)

【分布】 本州（関東以南）・伊豆諸島・四国・九州・琉球。千葉県周辺では伊豆大島、東京都目黒区、栃木県、神奈川県三浦半島などでの記録があるが極めて稀である。

【県内の状況】 君津市で 2007 年に発見された。



【保護対策】 無用の採集を慎む。自生地周辺の環境を保持する。

【文献】 大野啓一 2007 房総半島におけるムカゴサイシンの発見. 千葉県植物誌資料 23: 197-198

【写真】 2008.5.28 君津市 大場達之 (大場達之／天野誠)

